令和元年度 (2019年度)

沖縄県立博物館·美術館

博物館教育普及活動





ごあいさつ

本年度は「平成から令和」へと新たな時代を迎え、当館におきましても社会や時代の ニーズに対応した教育普及事業をより広く、より深く展開し、県民の皆様に親しんでも らう博物館を日々目指しております。

さて、博物館は様々な資料を分かりやすく展示し、多くの人々にご観覧いただくことを大きな使命としていますが、同時に21世紀の博物館づくりである、地域や様々な団体との「対話と連携の博物館づくり」が求められています。近年、博物館を訪れる来館者のニーズはますます多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館します。このような来館者のニーズに対して、より高い満足度をもって応えていくため、当館では今年度も多くの博物館事業を実施してまいりました。その中で、来館者への学習プログラム等の提供を行う教育普及活動では、テーマを「来館者がよろこぶ博物館」をスローガンとして掲げ、大きく二つの事業を推進してきました。

一つ目は、平成29年度(2017)から実施している学校連携モデル研究事業です。地域と博物館との連携のモデルをめざし、学校団体支援体制の強化を推進し、学校団体受入の充実を図りました。「出前授業等」では、学芸員と教師が連携した授業を小・中・高等学校で実施することができました。

二つ目に博物館が企画運営する事業として、現在登録されている博物館ボランティアのスキル向上を図る目的で、9名の展示解説ボランティアを育成し、学校団体支援体制の強化を推進・接遇サービスの向上につなげました。

また、文化講座におきましては、「極低温の不思議な世界」を皮切りに全 10 回実施しました。その他にも、学芸員講座や常設展展示解説会とバックヤードツアーをそれぞれ 11 回、さらに夏休み企画として、美術館と協働した「夏休み!こどもフェスタ」を企画しました。その中で博物館においては学芸員による子ども向け教室を全9 教室開催しました。

展覧会関連で9月より開催された企画展「台湾展」の取組として、座談会や映画上映会などの催事を、また11月より開催された特別展「グスク展」の取組として伊平屋島における遺跡ツアーなどの体験学習教室も開設し、好評をいただきました。

令和元年度の博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

令和2年3月

沖縄県立博物館・美術館 館長 田名 真之

博物館教育普及活動

目 次

ごあ	らいさつ	IX	ふれあい体験室28
I	博物館活動について1	1	ふれあい体験室の概要
1	はじめに	2	体験キットの種類
2	博物館活動(四つの車輪)	3	体験キットの補助ツール
	調査活動・展示活動・教育普及活動・保存管理	4	スタッフの配置状況
3	博物館の機能	5	利用者状況
4	博物館の施設	6	ふれあい体験室の取組み
5	令和元年度博物館教育普及活動について	X	ボランティア養成事業34
Π	学校連携7	1	目的
1	学校団体受入要項	2	ボランティアの活動内容
2	「民具体験学習」の概要	3	ボランティア養成事業の実施状況
3	「民具体験学習」の実施状況	<	別紙資料> ボランティア養成事業
4	「出前授業等」の実施要項	<	別紙資料> 令和元年度(2019)
5	「出前授業等」の実施状況		ボランティア通信
Ш	博物館体験学習教室13	XI	その他63
1	体験学習教室の実施要項	1	移動展
2	体験学習教室の実施状況	2	職場体験
IV	博物館文化講座14	3	教育普及資料の活用
1	文化講座の実施要項	4	ボランティアによる展示ガイド
2	文化講座の実施状況	5	企画展・特別展関連事業
V	博物館学芸員講座19	6	常設展に関する取組み
1	学芸員講座の実施要項	7	新聞・雑誌等掲載一覧
2	学芸員講座の実施状況	8	印刷物一覧
VI	博物館常設展示解説会24		
1	展示解説会の実施要項		
2	展示解説会の実施状況		
VII	バックヤードツアー25		
1	バックヤードツアーの実施要項		
2	バックヤードツアーの実施状況		
VIII	夏休みこどもフェスタ 2019…26		

学芸員教室の実施要項
 学芸員教室の実施状況

I 博物館活動について

1 はじめに

博物館は、資料収集・保存管理、調査、展示、教育普及の四つを館活動の車輪としている。それら車輪を機能させるために下記(1)~(4)のスタンスを構築していく。

- (1) 琉球王国時代の文化(王朝文化)を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- (2) 人類学をはじめ、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究活動。
- (3) 沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信する活動。
- (4) 博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

2 博物館活動(四つの車輪)

資料収集 保存管理 博物館資料は、産地、用途、製作年、材質、大きさ等の違いにより、その種類は多岐に渉っている。これら博物館資料は、材質別・性質別に区分され、適切な温度・湿度や虫害などの対応ができるような環境で保存・管理され良好な状態で次世代へ引き継ぐ。また、資料の管理状況が把握できるようなデータベース化を進めている。

調査活動

沖縄に関する資料や関連資料は、本県の海洋性・島嶼性の地理的要因により日本や中国、東南アジア諸国までその範囲を広げている。そこで本県の豊かな自然や独自の歴史・文化に関する資料を自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗の 5 分野で探求し、体系的に調査研究し、資料の充実を図る。

また、各研究機関や大学と共同で調査研究を行い、沖縄が持つ特性や優位性を発揮できるよう努める。

展示活動

展示は資料を公開することだが、その資料が持っている背景や意味も重要になる。学芸員の展示活動は、この資料が持つ意味をできるだけ詳細に分析し、得られた成果を展示等に活かすことである。

展示の形は、郷土を紹介する基本的な展示の常設展、ある特定のテーマで開催される特別展・企画展、そして各島々で開催される移動展は、島嶼県である本県の特徴的な展示活動である。

教育普及 活動

博物館が持つ知的財産を一般に提供する手段として普及活動がある。学校などの教育機関や関連施設と連携協力(ネットワーク化)を推進し、教育的配慮のもと様々な方法をもって県民共有の財産としていく。また、博物館活動を活性化するためには、県民の積極的な参画が必要である。そのため「博物館ボランティア養成」を行い活動を推進している。

博物館では、県内の文化講座で草分け的存在である「博物館文化講座」や「学芸員講座」、「体験学習教室」等を実施、遊びながら学べる「ふれあい体験室」も普及事業を担っている。

3 博物館の機能

博物館はその名の通り、様々な資料を収蔵している施設である。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していく。しかし、保管しているだけではなく、調査研究により、いつ・誰が・どこで・何のために作ったかを解明し、来館者へ紹介していく。資料は、展示や講座、論文、インターネットなど、いろいろな媒体を通して県民の知的財産として蓄積されていく。

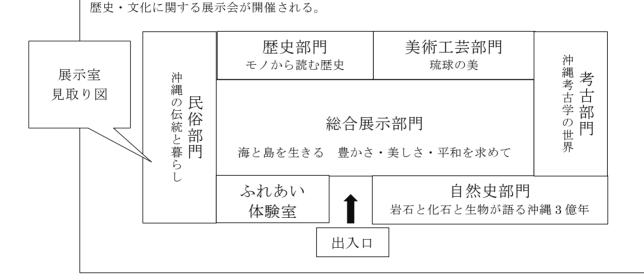
いつでも誰でもが利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能がある。

資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別(歴史・美工・民俗)・考古陶磁器・民俗・大型収蔵庫が設置され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護する。

資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っており、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・



学習する場としての展示室・講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を

考える場所である。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されている。また講演や体験を通して学習を行う講座室等がある。

資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、学芸員研究

室を中心に行われる。6分野の学芸員が各々または共同で、様々なテーマに取り組む。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展示会や講演会などで公開される。また、博物館紀要論文はホームページで公開される。

博物館施設を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、

館を運営している職員が事務を行うための部屋がある。

4 博物館の施設

(1) 常設展示

「常設展示」のメインテーマは、「海と島に生きる~豊かさ、美しさ、平和を求めて~」である。

沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平穏」を求め続けてきた歴史がある。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中で位置付け、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしている。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と、自然史・ 考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの「部門展示」に分かれる。

<総合展示>

「総合展示」は、次の 10 のテーマで、琉球列島の生い立ちから現代までの約2万年にわたる沖縄の歴史をたどる。中国や日本の文化を取り入れながら、独特の文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介する。

「ニライカナイの彼方か ら」・「シマの自然とくらし」・ 「海で結ばれた人々」・「貝塚の ムラから琉球王国へ」・「王国の 繁栄」・「薩摩侵攻と琉球王 国」・「王国の衰亡」・「沖縄の近 代」・「戦後の沖縄」・「沖縄の今、 そして未来へ」の順に展示を観 ることができる。中央に配した 「シマの自然とくらし」のエリ アでは、沖縄の「海洋性」・「島 嶼性 | を大型地形模型によって 実感することができる。また、 情報端末機で島ごとに異なる 表情を持った自然やくらしな どを調べることができる。

<部門展示>

「部門展示」は、総合展示を取り巻く展示である。自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、各分野のテーマをより深め、展示替えの頻度を高める展示を目指す。

自然史部門展示

「生物が語る沖縄 2 億年」をテーマに島の成り立ちや、島々で独特の進化をとげた生き物の世界を展示する。自然観察コーナーでは、顕微鏡で化石や昆虫、岩石の破片、植物標本などを見ることができる。

考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古の人々の生活を追体験することができる。

美術工芸部門展示

美術工芸部門展示では、「琉球の美」を求める。琉球王国時代、 それ以降の染織品、焼物、漆芸品などの工芸品や絵画、彫刻、書跡 などの逸品をゆったり鑑賞することができる。1年に数回テーマを 変え、様々な美術工芸の世界を通し、「琉球の美」を追求する。

歷史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々な「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていく。展示室内の一角では「那覇港」をテーマに、近世に製作された屏風絵の世界から、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的意味を紐解いていく。

民俗部門展示

民俗部門展示のテーマは「沖縄の伝統とくらし」である。民俗の 宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民 具や信仰などを通して、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験す ることができる。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介する。

(2)屋外展示

高倉	高倉は、穀物を貯蔵する倉庫である。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫がなされている。構造の違いにより、「沖縄式」と「奄美式」に分かれる。この高倉は、昭和初期に建てられたものを、昭和51年(1976)に奄美から移築した。
民家	沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしている。門扉が無く、母屋も雨戸を全開にして風を通す。また、母屋の正面にあるヒンプン (中垣) は、外部への目隠しとなる。この建物は、資料としてのみならず、講座や多種イベントの際にも会場の一部として活用されており、平時も靴を脱いでの内覧も可能となっている。
湧田窯	湧田窯は 17 世紀頃の窯跡で、平窯の構造が特徴である。主に、屋根瓦を焼いた窯である。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料である。

(3) ふれあい体験室

博物館常設展示室の手前にある「ふれあい体験室」には、37種類の体験キットが準備されている。これらは展示と関連しており、展示資料を深く理解できるように工夫されている。キットは、パズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっており、体験することで五感を通して沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができる。

(詳細については「IX ふれあい体験室」を参照)

(4)情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索用の座席を 38 席設けた情報提供のための部屋である。博物館の収蔵資料の検索や、DVD やビデオの視聴ができる。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できる。

(5)講堂・講座室等

講堂	講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができる。 212 席(車いす 2 人含む)の収容が可能。
講座室	100 名規模の講演会や会議などを開催できる。 机と椅子を撤去すると、小学生 150 名程度の集会が可能。
実習室	体験学習や実技講習会などを開催できる。 40 名程度の収容が可能。

(6) 救護室

来館中における、軽度の気分不良の際には、休憩をとることが可能である。(ベット数 1台)

(7) 駐車場

一般車両 158 台 (身障者用 4 台含)、バス 10 台が駐車可能である。 特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を用意してある。 また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備してある。

(8) コインロッカー

百円が返金される、無料のコインロッカーが 204 本準備されている。大きな荷物を持参する際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、手荷物を預けてからの入館をお願いしたい。

(9) バリアフリー

博物館・美術館は、不特定多数の人々が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設に する必要があることから、以下のような整備を行っている。

- ■観覧者が利用するトイレには、車イス使用者や乳児連れ、オストメイトに対応した機能を設けている。
- ■講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしている。
- ■館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしている。
- ■車イスや使用者駐車スペースには、雨天時の乗降に考慮して雨よけを設置している。
- ■道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設している。
- ■高齢者や体の弱い人がゆっくり観賞できるように、展示室内に休憩室や椅子を準備している。
- ■案内表示は日本語と英語の2ヶ国語表示としている。

(10)環境への配慮

■太陽光発電システムの導入

環境負担の低減と電気量の節約を図るため、10kw程度の太陽光発電装置を設置している。

■雨水及び再生水の有効利用

地下に雨水タンクを設けて、トイレ洗浄水や灌水に利用している。

■夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより割高な昼間電力の増加を抑えている。

■総合的有害生物管理(IPM: Integrated Pest Management)施設

博物館・美術館では、有害生物(虫・菌等)から文化財を保護するために IPM を行っている。 IPM は、施設を取り巻く環境状況や有害生物の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫菌害を抑える管理方法である。

博物館を利用する方には、館内への飲み物、食べ物の持ち込みをご遠慮いただいている。遠足等の行事の際にも、荷物を車で管理する等の配慮をお願いしたい。

5 令和元年度博物館教育普及活動について

博物館の教育普及活動は、大きく2つの事業に分けることができる。1つ目は、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する「学校連携事業」である。2つ目は、博物館が企画運営する「文化講座」等の各種講座、「常設展示解説」等の各種解説会、「体験学習教室」、「ボランティア養成」等の事業である。それ以外にも、博物館を通して教育普及に関する全般的な活動にも取り組んでいる。

(1) 学校連携事業 「学校連携モデル研究事業」

学校連携事業では、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館として支援することのできる学習内容の調整を行った。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成した。

<今年度の取り組み>

令和元年8月1日に県内教職員向け(小学校)講座を行い、博物館資料を活用した授業プログラムの講習会を開催した。また昨年度に引き続き、出前授業等、民具体験などの「館内学習プログラム」の充実を図るほか、「学校連携モデル研究事業」として、県内 5 箇所のモデル校設置を行った。※事業は令和2年度(2020)まで

(2) 文化講座

博物館の展示内容と関連する各分野(自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗)の講演、シンポジウム、実演によっては、講演後に関連した展示場所での担当学芸員による展示解説を行う等、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施した。

(3) 学芸員講座

博物館の学芸員が、研究成果や収蔵品の成果等の講演や展示解説などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施した。各分野の学芸員の充実した講話は、博物館をより身近に捉え、観覧者の層を拡大する大切な役割を担った。

(4) 展示解説会

博物館の展示内容に関する資料などの解説を、学芸員の広い視点からわかり易く解説した。 当館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、総合博物館ならではの資料のつながりを知る機会とした。

(5) 体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先 人の知恵などを学ぶ機会とした。博物館の各分野(自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗)の 展示や企画展等と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供した。

(6) バックヤードツアー

博物館のもつ、調査・研究・保存の各機能を担う諸室の見学を実施した。普段は、入ることの出来ない収蔵庫やトラックヤードなどの機能を理解し、博物館についてより知ってもらう機会とした。

(7) 夏休み子どもフェスタ~博物館学芸員教室~

学芸員が、夏休み休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究の導入となる内容を検討し、体験型の教室を開催した。可能な限り博物館の情報を提供するなど郷土への興味・関心を高める場を提供した。

(8) ボランティア養成講座

博物館では、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を行うと共に、博物館支援活動を目的とした「博物館ボランティア」を導入しており、主に館内催事・学校連携事業全般における来館者サービスをサポートする人員として、「博物館ボランティア」、当施設であるふれあい体験室での来館者サービスを専属としてサポートする「ふれあい体験室専属ボランティア」がある。

令和元年度(2019)は、現在登録されている博物館ボランティアより、常設展示(総合展示部門)のガイドを養成するため募集をし、9名のボランティアが新たに総合展示部門ガイドとして登録された。併せて土・日・祝日のみ活動となる、ふれあい体験室専属ボランティアの募集を行ったが、受講者途中棄権のため中止とした。

現在は総勢66名(休止を除く継続活動申請者)のボランティアが登録している。

※ふれあい体験室専属ボランティアは、次年度以降募集・養成講座実施終了とし、現在それに 登録されている方々は名称を「博物館ボランティア」として統合することとした。

(9) その他

• 移動展

普段、当館に足を運ぶことのできない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、博物館資料や美術作品を観賞する機会を提供した。今年度は、伊江島で開催した。

Ⅱ 学校連携

1 学校団体受入要項

(博物館施設の学校団体見学・体験学習・校内研修等の利用について)

(1) ねらい

- ①博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- ②博物館における団体受入を計画的に準備し、運営を行う。
- ③博物館を利用する学校団体に、博物館来館を年間計画の中に位置づけてもらうことにより、 計画的な学習支援を行う。

(2) 博物館施設についての、申請から利用までの流れ

①「体験学習に係る利用の流れ」 県内 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

各教科・総合的学習の時間・修学旅行・社会科見学等

- (1)展示資料の教材活用
- ①館内の自由見学・・・・・・・・・・・(下見打合せ/無)
- ②ボランティアを活用したガイド・・・・・・(下見打合せ/有)
- ③夏季課題学習(主に高校)・・・・・・・(下見打合せ/有)
- ※開館時間 9:00~17:00→所要時間:1~2 時間程度
- (2) 体験学習での活用
- ①民具体験(小学校)・・・(下見打合せ/有)次頁参照有り

☆15 校程度を受入予定(申請多数の場合、6月に抽選、結果お知らせ)

- ②ジョブシャドウイング (中学校)・・・(要 相談・問い合わせ)
- ③職場体験学習(中学校)・・・・・・(要相談・問い合わせ)
- ④インターンシップ(高校)・・・・・(要相談・問い合わせ)
- ⑤その他体験学習・・・・・・・(要 相談・問い合わせ)
- ※開館時間9:00~17:00

申請書のダウンロード・申請

- (1) の活用について ~11 月末日までに申請
- (2) 民具体験学習について 受付5月1日~31日まで

FAX にて申請

下見・打合せ

(実施2ヶ月前までに)

来館・実施



(要 相談・問い合わせ)博物館班教育普及担当へご相談下さい。

(代)TEL:098-941-8200

FAX: 098-941-2392

沖縄美ら島財団教育普及担当:保久村 智恵、大濵 萌子

②「教職員・職場内研修に係る利用の流れ」 県内 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

校内研修・その他研修

(1)校内研修、自主研修としての活用・・・・(要 相談・問い合わせ) ①教員向け講座

『博物館ボランティアから、民具体験を学ぼう!』(仮称)

☆8月第1週に開催予定、後日公文発送。

☆午前(予)指導案、解説マニュアル等の提供有り。(3 時間ほど)

☆午後(予)展示室解説有り (1~2 時間)

②博物館ボランティアによる、展示室解説ガイド・・・(下見打合せ/有)

(2) 教職者 10 年研修等での活用・・・・(要 相談・問い合わせ)

(3) そのほかの活用・・・・・・・・(要 相談・問い合わせ)

博物館班教育普及担当へご相談



- ○申請:団体見学申請 (FAX にて)
- ○教員向け講座募集

※6月より募集・公文後日発送 ※左いずれも来館料が必要。

来館・実施



(要 相談・問い合わせ) 博物館班教育普及担当へご相談下さい。(代)TEL:098-941-8200 FAX:098-941-2392

2 「民具体験学習」の概要

令和元年度の民具体験学習プログラムの詳細

民具体験学習プログラムの詳細については、次のプログラム1~2を設定した。

【民具体験学習プログラム1】ボランティアサポートあり

- ・4月にボランティアサポートによる民具体験受入に係る実施要項を県内配布し、受入期日を指定した上で募集を行った(募集期間5月末日)。
- ・募集の中から抽選で受入校を決定し、主に夏休み期間中に下見と打合せを行い、プログラム内容の決定を行った。
- ・プログラム決定後、ボランティアの募集を行い、館内施設を活用し当日のプログラム に臨んだ。

【民具体験学習プログラム2】教師主導による授業活用

- ・夏休みにおける教職員向け講座を企画し、6月に県内各小学校・特別支援学校へ実施要項を配布し募集を行った。
- ・参加者(20名)に民具体験学習プログラムに係るマニュアル書を配布し、博物館ボランティアサポートの下、館内施設を活用し講習会を行った。

3 「民具体験学習」の実施状況

項目	期日	実践校
	11月14日(木)	八重瀬町立新城小学校
	11月22日(金)	豊見城市立とよみ小学校
	11月22日(金)	南風原町立翔南小学校
	12月3日 (火)	豊見城市立座安小学校
	12月6日(金)	那覇市立小禄南小学校
民具体験学習プログラム1	12月17日(火)	那覇市立安謝小学校
(ボランティアサポートあり)	1月10日(金)	那覇市立石嶺小学校
	1月16日(木)	浦添市立仲西小学校
全 15 校	1月17日(金)	那覇市立金城小学校
至10 仅	1月21日(火)	那覇市立那覇小学校
	1月22日(水)	那覇市立識名小学校
	1月23日(木)	那覇市立城南小学校
	2月7日(金)	南風原町立津嘉山小学校
	2月12日(水)	那覇市立銘苅小学校
	2月14日(金)	那覇市立松川小学校
	10月18日(金)	中城村立中城小学校
 民具体験学習プログラム2	10月25日(金)	糸満市立兼城小学校
(教師主導による授業活用)	11月6日(水)	南城市立玉城小学校
(教師工事による)又来17月/月	11月15日(金)	那覇市立天久小学校(2クラス)
全6校	11月20日(水)	那覇市立天久小学校 (2 クラス)
王□汉	11月26日(火)	那覇市立さつき小学校
	2月5日(水)	那覇市立開南小学校
	合計(校)	2 1

4 「出前授業等」の実施要項

令和元年度学校連携モデル事業

(1) 趣旨

博物館の持つ資源(もの、情報、人)を、出前授業等を通じて学校教育の場で有効に活用する。

(2)内容

- ①学校での授業や教員の研修会などに学芸員を講師として派遣する。
- ②授業では、ティーム・ティーチングの手法により、学芸員は教員と共同し、博物館資料を活用するなどして児童・生徒の学習を支援する。

(3) 対象

県内公立学校及び私立学校(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校) ※クラス単位もしくは学年単位

(4) 実施時間

1~2 時間程度(調整可)

(5) 実施場所

当該校

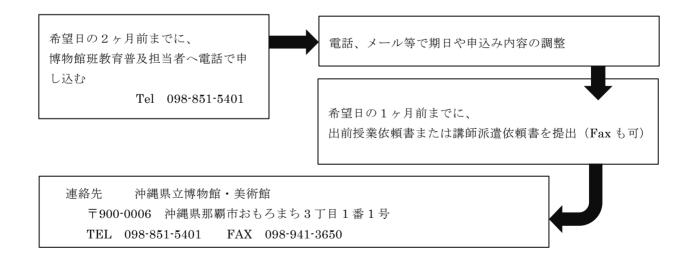
(6) 申し込み方法

※別紙参照

(7) その他

各学校から依頼の「出前授業等」に係る学芸員の派遣旅費(交通費)は、沖縄県立博物館・ 美術館で負担する。

(8) 出前授業等の申込み方法と連絡先



(9) 学芸員紹介

	担	氏 名	
		生物	菊川 章
	r 44 H	地 学	宇佐美 賢
	自然史	人類	山崎 真治
			澤浦 亮平
博	光 	絵画・染織・陶器	篠原 あかね
博 物 館 班	美術工芸	書跡・彫刻・漆器	伊禮 拓郎
班	歴史	古琉球・近世	久部良 和子
	庭 文	近 現 代	外間 一先
	考	古	山本 正昭
	民	俗	阿利 よし乃
	教育	普 及	大川 剛

○沖縄県の自然、歴史、文化をはじめ、上記内容について、学芸員が博物館の持つ資源(もの、情報)を活用 し、児童・生徒の学習を支援する。

※校内研修等で博物館活用について、レクチャーする。

※「講師派遣依頼書」は、ホームページでダウンロードして使用可能。

5 「出前授業等」の実施状況

_			
	期日	担当学芸員	実施校及び施設
1	4月5日(金)	園原 謙(美術工芸)	池原老人会(池原公民館)
2	7月8日(月)	大川 剛(教育普及)	那覇市立天久小学校
3	10月24(木) 10月25日(金)	外間 一先 (歴史:近現代)	沖縄県立宮古高等学校
4	10月28日(月) 10月30日(水)	澤浦 亮平(人類)	法政大学国際高等学校
5	11月15日(金)	澤浦 亮平(人類)	沖縄県立向陽高等学校
6	1月14日(火)	大川 剛(教育普及)	那覇市立城南小学校
7	1月30日(木)	宇佐美 賢(地学) 菊川 章(生物) 玉城 ちひろ (教育普及補助)	伊江村立西小学校
8	2月6日(木)	宇佐美 賢(地学)	沖縄県立コザ高等学校
9	2月17日(月)	菊川 章 (生物)	沖縄県立コザ高等学校 定時制

Ⅲ 博物館体験学習教室

1 体験学習教室の実施要項

(1)趣旨・目的

沖縄の歴史や文化および自然と結びついた体験的な活動をすることによって、郷土の文化や 伝統に関心を持たせ、先人の知恵などを学ぶ。

(2)内容

博物館の各分野(自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗)の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

(3)受講方法

1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。 ※抽選の場合、当選者には、事前に当選の通知連絡を行う。

(4)体験学習に係る役割

前日ま	で		当日運営		
①事業起案及び講師依頼		博教育普及担当	①受け付け及び材料費徴収	指定管理者	
②マスコミ各社への取材依頼		指定管理者	②開講式 司会	JJ	
③受講生受け付け		"	③講師紹介		
④講師事前打ち合わせ ○博		専物館教育普及担当	④講座の進行	○博物館教育普及担当	
⑤説明資料作成			⑤材料等の準備及び配布	○指定管理者	
⑥材料・道具等の諸準備	O į	指定管理者	⑥記念撮影	○ボランティア	
⑦ボランティア事前学習		T	⑦報償費支払い事務		
• 準備作業調整					

2 体験学習教室の実施状況

講座日	題	講師名	内容	参加者
2月29日(土)	OkiMu でサンゴを知ろう!サンサンゴーゴー! ※ウイルス感染対策のため中止。	菊川 章 (生物担当)	①サンゴ礁ジェルキャンドルをつくろう②サンゴ礁の砂になった生きものを探そう(万華鏡づくり、封入標本づくり)③サンゴ礁ストラップをつくろう④サンゴ礁の絵本よみきかせ	

Ⅳ 博物館文化講座

1 文化講座の実施要項

(1)趣旨•目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然・歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2)内容

当博物館の展示内容と関連する自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日:毎月1回、土曜日 午後2時~4時までの2時間

場 所:特に指定がない場合は、当館講堂(3F)

(4)受講方法

当日先着 200 名 (事前申込み不要)

2 文化講座の実施状況

回数	期日	演題	講師名	定員	参加
502	4月20日(土)	極低温の不思議な世界	與儀 護 氏	200	70
503	5月18日(土)	洞窟の謎と魅力	石原 与四郎 氏	200	102
504	6月15日(土)	人に生まれて良かったと思える、 虫のはなし	宮竹 貴久 氏	200	98
505	7月20日(土)	人類学特論	影山 幾男 氏 奈良 貴史 氏	200	75
506	8月17日(土)	石にかわって話したい!	大城 逸朗 氏	200	80
507	9月21日(土)	ハイサイ沖縄 〜沖縄を見つめて 30 年〜 ※台風 17 号接近のため中止	呉 密察 氏	200	-
508	10月5日(土)	台湾から見える 沖縄現地取材レポート	松田 良孝 氏	200	200
509	11月2日(土)	シマクトゥバによる民話の記録	加治工 真市 氏 西岡 敏 氏	200	91
510	12月21日(土)	形から見たグスクの原点を探る	千田 嘉博 氏 向井 一雄 氏 山元 貴継 氏 山本 正昭	200	242
511	1月18日(土)	琉球の刺繍について	寺田 貴子 氏	200	133
512	2月15日(土)	琉球王国のモノ作り 〜金工品とガラス玉を中心に〜	久保 智康 氏	200	81

第 502 回 文化講座

「極低温の不思議な世界」

講師:與儀 護 氏(琉球大学准教授)

内容:

- 1 人々はなぜ低温を目指したか
- 2 極低温への到達と不思議な世界の発見
- 3 極低温の不思議なことは私たちの生活に役立つのか?









第 503 回 文化講座

「洞窟の謎と魅力」

講師:石原 与四郎 氏(福岡大学助教)

内容:

1 洞窟とはどんなものか

2 洞窟の魅力1:未知への興味と挑戦3 洞窟の魅力2:洞窟はタイムカプセル









第 504 回 文化講座

「人に生まれて良かったと思える、虫のはなし」

講師:宮竹 貴久 氏(岡山大学教授)

内容:

1 「先送り」は生物学的に正しい

2 「死にまね」について

3 虫の繁殖について





第 505 回 文化講座

「人類学特論」

講師・内容

講演1:影山 幾男 氏(日本歯科大学教授)

「ヒトの発生」

講演 2: 奈良 貴史 氏 (新潟医療福祉大学教授)

「ヒトはなぜ難産なのか?」















第 506 回 文化講座

「石にかわって話したい!」

講師:大城 逸朗 氏(理学博士、沖縄石の会会長)

内容:

1 石と岩石のこと

3 石がたどった自然

3 有がたこうた日然

5 石ころは芸術家だ

2 何かを語りたい石たち

4 利用された石たち

6 石と遊んだ経験を生かして

7 シーブン









第 507 回 文化講座

「ハイサイ沖縄〜沖縄を見つめて 30 年〜」 講師:呉 密察 氏(台湾故宮博物院 院長)

※台風17号接近のため中止。



第508回 文化講座

「台湾から見える沖縄 現地取材レポート」

講師:松田 良孝 氏(中華民国国外交部フェロー・ジャーナリスト)

内容:

1 自己紹介 2 グローバルな課題と台湾

3 台湾からやってきた人たち 4 台湾へ渡った沖縄人

5 台湾からのまなざし 5 再構築される交流









第509回 文化講座

「シマクトゥバによる民話の記録」

講師・内容

講演1:加治工 真市 氏(沖縄県立芸術大学名誉教授)

「民話と方言学」

講演2:西岡 敏 氏(沖縄国際大学教授) 「しまくとうばアーカイブの活用」













第 510 回 文化講座 (特別展「グスク展」関連催事 シンポジウム)

「形から見たグスクの原点を探る」

講師・内容

【第1部 各講師報告】

報告1:千田 嘉博 氏(城郭考古学者・奈良大学教授)

「世界の城とグスク」

報告2:向井 一雄 氏(古代山城研究会代表)

「日本本土で見られる朝鮮式山城について」

報告3:山元 貴継 氏(中部大学准教授)

「朝鮮半島における邑城について」

報告4:山本 正昭(当館考古担当学芸員)

「福建省に分布する明代の城郭遺跡について」

【第2部 シンポジウム】

上記講師 4 名

司 会:上里 隆史 氏(浦添市図書館館長)

















第 511 回 文化講座

「琉球の刺繍について」

講師:寺田 貴子 氏(活水女子大学教授)

内容:

- 1 背景(講師プロフィール等)
- 琉球文化圏に残る刺繍品の特徴
- 3 琉球古刺繍に類似した国内外の刺繍に関する調査研究の成果
- 「琉球王国文化遺産集積・再興事業」における「伊平屋阿母 加那志繍衣装」の復元作業









第512回 文化講座

「琉球王国のモノ作り~金工品とガラス玉を中心に~」

講師: 久保 智康 氏 (京都国立博物館名誉館員・叡山学院教授)

- 内容:
- 1 金工・ガラス玉の外からの受容
- 2 金工のモノ作り
- 3 ガラス玉作り









V 博物館学芸員講座

1 学芸員講座の実施要項

(1)趣旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2)内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説、実技指導などを通して、県民各層が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

(3)実施日と場所:実施日

毎月1回、土曜日 午後2時 \sim 4時までの2時間 (講座により変更あり) 場 所:博物館講座室を基本とする

(4)受講方法

当日の来館参加という形をとり、基本的に予約はしない。

2 学芸員講座の実施状況

回数	期日	演題	講師名	定員	参加者
1	4月13日(土)	沖縄先史時代の墓と人骨	山崎 真治	80	79
2	5月11日(土)	今、明かされる琉球王国の手わざ 〜琉球王国文化遺産集積・再興事業 について〜	篠原 あかね	80	63
3	6月8日 (土)	フィールドツアー① 沖縄本島南部の自然観察に行こう!	菊川 章 宇佐美 賢	20	18
4	7月13日(土)	実践!骨考古学~入門編~	澤浦 亮平	80	60
5	8月3日 (土)	組踊上演 300 周年記念特別講演 玉城朝薫と組踊	田名 真之	200	164
6	8月10日(土)	博物館バックヤードたんけん	大川 剛	15	14
7	9月7日(土)	八重山における神役の継承	阿利 よし乃	80	58
8	10月12日(土)	フィールドツアー② 沖縄本島北部の自然観察に行こう!	宇佐美 賢 菊川 章	12	12
9	11月9日 (土)	映像・写真記録の沖縄~OkiMu (博物館) コレクションから~	外間 一先	80	94
10	12月14日(土)	館所蔵石碑について 〜残された「拓本」から考える〜	久部良 和子	80	57
11	1月11日(土)	特別展の魅力を隅々まで語るガイド ①10:00 開始 ②14:00 開始	山本 正昭	各回 30	①17 ②46
12	2月8日 (土)	博物館における民俗研究について ~ものに漲る自然と人の力~	大湾 ゆかり	80	30
13	3月7日 (土)	琉球漆器の螺鈿技法のうつりかわり ※ウイルス感染対策のため中止。	伊禮 拓郎	80	_

第1回 学芸員講座

「沖縄先史時代の墓と人骨」

講師:山崎 真治(人類担当学芸員)

内容:

1 「葬送」のルーツ

2 現生人類の拡散と葬送文化

3 沖縄先史時代の墓:旧石器時代/貝塚時代/グスク時代

4 人骨からわかること

5 講座後、当館総合展示室にて、学芸員による展示解説会(31名)







第2回 学芸員講座

「今、明かされる琉球王国の手わざ〜琉球王国文化遺産集積・再興事業について〜」

講師:篠原 あかね (美術工芸担当学芸員)

内容:

1 琉球王国文化遺産集積・再興事業とは

2 各事業における取組紹介:絵画/陶芸/三線









第3回 学芸員講座

「フィールドツアー① 沖縄本島南部の自然観察に行こう!」

講師:宇佐美 賢(地学担当学芸員)·菊川 章(生物担当学芸員)

内容:沖縄本島南部における、フィールドツアー















第4回 学芸員講座

「実践!骨考古学~入門編~」

講師: 澤浦 亮平(人類担当学芸員)

内容:

- 1 骨考古学ことはじめ
- 2 「骨」とはどんなものか
- 3 骨に残された様々な痕跡を読み解く
- 4 シカの骨の化石を同定させる (ワークショップ)
- 5 骨考古学の最新の話題













第5回 学芸員講座

組踊上演300周年記念特別講演

「玉城朝薫と組踊」

講師: 田名 真之(館長)

内容:

- 1 1714年の江戸上がり (江戸立)
- 2 1719年の冊封
- 3 踊奉行と朝薫5番









第6回 学芸員講座

「博物館バックヤードたんけん」

講師: 大川 剛(教育普及担当学芸員)

内容:中学生以下を対象に参加を募り、探検形式で収蔵資料を学習







第7回 学芸員講座

「八重山における神役の継承」

講師: 阿利 よし乃(民俗担当学芸員)

内容:

1 神役とは?

2 奄美・沖縄の民俗宗教の特徴

3 琉球王国時代の神女組織

4 現在の八重山における神役の継承







第8回 学芸員講座

「フィールドツアー② 沖縄本島北部の自然観察に行こう!」

講師: 菊川 章(生物担当学芸員)・宇佐美 賢(地学担当学芸員)

内容:沖縄本島北部における、フィールドツアー







第9回 学芸員講座

「映像・写真記録の沖縄~OkiMu(博物館)コレクションから~」

講師: 外間 一先(歴史(近現代)担当学芸員)

内容:

1 はじめに

2 写真資料について

3 映像フィルム









第10回 学芸員講座

「館所蔵石碑について~残された『拓本』から考える~」

講師: 久部良 和子(歴史(古琉球)担当学芸員)

内容:

- 1 はじめに
- 2 「琉球国時代石碑」の25基 重要文化財に指定
- 3 古琉球時代の文献資料
- 4 石に刻まれた「文字」との出会い
- 5 博物館資料としてのメタデータ
- 6 「拓本」について









第11回 学芸員講座

「特別展の魅力を隅々まで語るガイド」

講師: 山本 正昭(考古担当学芸員)

内容:特別展「グスク展」会場内展示解説

1 展示会会場前集合

2 会場内解説 10:00~11:30、14:00~15:30の2回開催









第12回 学芸員講座

「博物館における民俗研究について~ものに漲る自然と人の力~」

講師: 大湾 ゆかり (博物館班 班長)

内容:

- 1 沖縄県立博物館・美術館における民俗分野の歴史
- 2 上江洲 均先生の聞き書きから学んだ収蔵資料の魅力
- 3 これまでの調査とこれからの展望
 - (1) 葬墓制関係 (2) 琉球藍の製藍関係









Ⅵ 博物館常設展示解説会

1 展示解説会の実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2)内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説を通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学ぶことができる。

(3) 実施日と場所

実施日:毎月1回、第2木曜日 14:00~15:00までの1時間

場 所:博物館常設展示室

(4)受講方法

定員なし(事前申込不要、13:55にふれあい体験室に集合)

2 展示解説会の実施状況

常設展の展示解説会は、展示資料を前に解説パネルだけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介。参加者の内訳は、初めて参加するお客様のみならず年間パスポートや友の会会員、個人のリピーターの参加が定着している。各学芸員が1回ずつ担当し開催された。

	日時	分 野	講 師 名	定 員	参 加 者
1	4月11日 (木)	生 物	菊川 章		17
2	5月9日 (木)	人 類	山崎 真治		21
3	6月13日 (木)	歴 史	久部良 和子		33
4	6月23日 (日)	歴史	外間 一先		14
	慰霊の日関連催事	歴 文	グド町 元		14
5	7月11日 (木)	地 学	宇佐美 賢		29
6	8月8日(木)	美術工芸	篠原 あかね	なし	20
7	9月12日 (木)	歴 史	外間 一先	74 (17
8	10月10日 (木)	美術工芸	伊禮 拓郎		18
9	11月14日 (木)	民 俗	阿利 よし乃		20
10	12月12日 (木)	考 古	山本 正昭		12
11	1月9日 (木)	民 俗	大湾 ゆかり		8
12	2月13日 (木)	教育普及	大川 剛		12
13	3月12日 (木)	人 類	澤浦 亮平		_

※3月12日(木)の常設展示解説会は、ウイルス感染対策のため中止。

Ⅲ バックヤードツアー

1 バックヤードツアーの実施要項

(1) **主旨**•目的

博物館が持つ、調査・研究・保存の機能を担う収蔵庫や各部屋を学芸員が分かりやすく解説し、 普段見る事のできない博物館の機能の見学を通して、文化財への県民の意識向上を図る事を目 的とする。

(2)内容

普段見る事のできない博物館内の各部屋を見学する。

(3) 実施日と場所

実施日:毎月1回、今年度は基本第4土曜日 14:00~15:00までの1時間

場 所:博物館バックヤード

(4) 受講方法・定員

受講方法: 当日13:00から総合案内にて受付

定 員:12名(当日先着順)

2 バックヤードツアーの実施状況

バックヤードツアーは、より専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指し、学芸員が月ごとに講師を務めた。安全性を考慮し、常に学芸員と指定管理者スタッフの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室、研究資料室(書庫)、自然史実験室、トラックヤード、写真撮影室、冷凍室、工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。また、建物の構造やIPM(Integrated Pest Management:総合的有害生物管理)の取り組み、資料の修復について解説するなど、来館者に博物館の役割や使命を理解してもらうための工夫が担当毎に見られた。参加者層は、県外からの旅行客を含む一般来館者が大多数を占め、夏休み期間中は、親子連れが目立った。

	日時	分 野	講師名	定 員	参 加 者
1	4月27日 (土)	人 類	澤浦 亮平		10
2	5月25日 (土)	美術工芸	篠原 あかね		15
3	6月22日 (土)	考 古	山本 正昭		12
4	7月27日 (土)	生 物	菊川 章		11
5	8月24日 (土)	人 類	山崎 真治		10
6	9月28日 (土)	民 俗	大湾 ゆかり	12名	5
7	10月26日 (土)	地 学	宇佐美 賢	12名	11
8	11月23日 (土)	歴 史	外間 一先		12
9	12月28日 (土)	歴 史	久部良 和子		12
10	1月25日 (土)	美術工芸	伊禮 拓郎		12
11	2月22日 (土)	民 俗	阿利 よし乃		10
12	3月21日 (土)	教育普及	大川 剛		_

※3月21日(土)の常設展示解説会は、ウイルス感染対策のため中止。

Ⅲ 夏休みこどもフェスタ 2019 (博物館学芸員教室)

1 学芸員教室の実施要項

(1) 趣旨·目的(博物館学芸員教室)

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

(2)内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通した、沖縄の自然、歴史、文化について子ども向けの教室を行う。

(3) その他

①実施方法

○対象:県内の小学生・中学生

○実施日:令和元年7月23日(火)

から7月25日(木)まで

○時 間:10:00~16:30

*1教室90分程度(教室によって変更あり)

○定 員: 各分野 20 名程度(事前申込制)

*教室によって変更あり

○参加料:無料

*材料費は実費(講座により異なる)

○場所:実習室を中心に行う。

②受講方法

- ○各分野の担当学芸員の日程表をチラシ等で 告知し参加者を募る。
- ○事前申込制 ※応募者多数の場合抽選。
- ○各担当学芸員の指示のもと諸注意を守り 受講する。



2 学芸員教室の実施状況

期日・教室内容・講	参加	
【7月23日(火)】		
①『本日のお軸は?ミニ掛け軸をつくろう!』	伊禮 拓郎【美術工芸担当】	16 名
②『オリジナル民具ノートをつくろう!』	阿利 よし乃【民俗担当】	16 名
③『貝の矢じりをつくろう!』	山崎 真治【人類担当】	12 名
【7月24日(水)】		
④『動物の歯の石膏レプリカをつくろう!』	澤浦 亮平【人類担当】	14 名
⑤『考古学者体験』	山本 正昭【考古担当】	9名
⑥『やきものの絵付けをしよう!』	篠原 あかね【美術工芸担当】	20 名
【7月25日(木)】		
⑦『ダンゴムシのふしぎにせまってみよう』	菊川 章【生物担当】	13 名
⑧『石と友達になろう!』	宇佐美 賢【地学担当】	11 名
⑨『おきみゅージャーナリスト体験』	外間 一先【歴史担当】	2名

 学芸員教室 1 日目
 7 月 23 日 (火)

①伊禮 拓郎



『ミニ掛け軸をつくろう!』

②阿利 よし乃



『オリジナル民具ノートをつくろう!』

③山崎 真治



『貝の矢じりをつくろう!』

学芸員教室2日目

7月24日(水)

④澤浦 亮平



『動物の歯の石膏レプリカ をつくろう!』

⑤山本 正昭



『考古学者体験』

⑥篠原 あかね



『やきものの 絵付けをしよう!』

学芸員教室3日目

7月25日(木)

⑦菊川 章



『ダンゴムシのふしぎに せまってみよう』

⑧宇佐美 賢



『石と友達になろう!』

⑨外間 一先



『おきみゅー ジャーナリスト体験』

区 ふれあい体験室

1 ふれあい体験室の概要

(1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている"おきなわ"との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋である。この部屋は、常設展示として、総合展示・部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せ持っている。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなる。

(2) 体験キットの位置づけ

展示物(体験キット)は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」を触れる・見る・聞くなどの五感で体感できる操作や組立てなどの遊びを通じて、展示資料を深く学ぶことができる。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術 工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてが触れることのできるものとする。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されている。 来館者が自主的に触れることができるようにするために、職員や親子、一般の方々といった 様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていく。ふれあい体験室では、能動的に"沖縄の 「自然のしくみ」や「先人の知恵」"を発見・再発見することができる展示を行う。

(3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

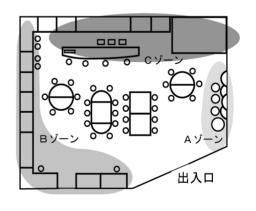
基本的に小学校中学年(3年生以上)を対象とする。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指す。

(4)体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としている。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもある。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けている。

見取り図 (ゾーニング図)

体験キット グループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループ A	【見る・触る】 ・直感的に(一見して)内容が分かる。 ・安全性、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできる。 *来館者によっては手助けが必要。
グループ B	【聞く・比べる・聞ける・押す】 ・簡単な操作で内容が分かる。 ・安全性がある程度確保されていて、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできるが、 *来館者によっては手助けが必要な場合もある。
グループ C	【組み立てる・作る・分類する】 ・作業を通して仕組みや内容が分かる。 ・細かい部品や安全面での指導、管理を要する。 ・破損、摩耗しやすい等、耐久性が低い。	・スタッフを介してキットを受け渡し、 介助を得ながら、もしくは目の届く範 囲で利用する。 *来館者によっては手助けが必要ない場合もある。



2 体験キットの種類

No.	タイトル	分野	小テーマ	中テーマ	大テーマ	備考
1	サインを見のがすな!					
2	小さな生き物の大きな仕事					
3	耳をすませば		きみはだぁれ?	生		
4	この骨だれの?			物 界		
5	サンゴと生きる			界		
6	いろいろなタネ	自然史				
7	いろいろな木と草		自然のすがた			
8	いろいろな石と砂		日然のすがに			
9	見える星座・見えない星座			地	自	
10	化石 ~生きていたあかし~			史	自然のしくみ	平成19年度
11	港川人研究所		地下にねむる			
12	土層と遺物からわかること	考古	歴史のなぞ			
13	石で築く	71				
14	ヌチグスイ		食の知恵		•	製作
15	イノー ~海の食料庫~]			先	表 IF
16	御三味(ウサンミ)		食の習わし		人	
17	いろいろな道具	民俗	生活のくふう	人々のくら	の 知 恵	
18	島々のコトバ		沖縄のコトバ			
19	いろいろな玩具		シマの心			
	いろいろな楽器		> \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \			
21	衣からわかること		色のひみつ			
22	焼物 ~かたちのわけ~	美術工芸	・形のふしぎ	L		
23	漆 ~飾るたのしみ~		770773.00			
24	印かんってなぁに?	歴史				
25	島のかたち		歴史 国のかたち			
26	記録のくふう					
27	国々とのおつきあい					
28	サンゴとカッチュウソウの深~い仲					
29	コロコロ生態系	自然史	沖縄県立博物館·美術	析館魅力アップ事業		
30	岩石観察		「ふれあい体験室機能強化事業」実施にお		施にお	
31	化石組み立て体験		ける体験キットとして製	!作		
32	絣のしくみ					平成27年度
33	三線のかたち①・②	美術工芸				製作
34	仁王像					
35	ウチナーの昔話	民俗				
36	チュンジー	歴史				
37	万国津梁の鐘	止义				

※平成29年度に製作した開館10周年記念特別展「海の沖縄」関連体験キットは、ふれあい体験室の体験キット登録を解除し、貸出用教育普及資料として利用することが決定した。



No.3 耳をすませば



No.17 いろいろな道具



No.19 いろいろな玩具

3 体験キットの補助ツール

今年度は新たな補助ツールの制作は行わず、既存の補助ツールを引き続き活用した。体験のてびき「ふれたいシート」はふれあい体験室の案内リーフレットとしても利用できるため、今年度は館外での配布を積極的に行った。

4 スタッフの配置状況

ふれあい体験室は常駐の職員1名(沖縄美ら島財団)と博物館ボランティアスタッフで運営を行っている。現在、職員は常勤スタッフ1名とアルバイトスタッフ5名を配置している。今年度はアルバイトスタッフの入れ替えがあったため、新規採用のスタッフには1ヶ月の研修を行い、ふれあい体験室における来館者への体験サポート、室内の安全管理、体験キットの整備・修繕などの基本的な業務について理解を深めてもらい、円滑に運営できるよう努めた。

5 利用者状況

今年度のふれあい体験室の来場者は、81,292人(1日平均268人/3月1日現在)。昨年度から引き続き、観光客数増加の影響を受け、開館以来初となる8万人を超える来場者数を記録した。

今年度の夏は「ジブリの大博覧会」や企画展「THE KUMIODORI 300」などが企画され、これまでで一番の混雑が予想されていたため、夏休み期間中はスタッフ2名体制で運営し、来場者と展示物の安全管理を徹底した。また、博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティアにもサポートを呼びかけ、繁忙期でも来館者サポートの質が落ちないよう協力して運営を行った。

また、展示において、博物館企画展「台湾展」や博物館特別展「グスク展」と関連した体験キットや資料の展示を展開。ふれあい体験室ワークショップにおいても「台湾展」に関連した新規プログラム「ペーパービーズのアクセサリーづくり」を開催することで、相互送客につなげることができた。今後も展覧会と連動したプログラムを積極的に実施していきたい。

年明けから国内全体で新型コロナウイルスによる感染が拡大し、当館でも3月3日以降ふれあい体験室・情報センターの休室措置を行った。3月11日現在、休室中。

6 ふれあい体験室の取組み

(1) ふれあい体験室ワークショップ

今年度のふれあい体験室ワークショップは、体験キットの充実・発展を目的に、各分野担当学芸員や専門の指導者と協力して4つのプログラムを開催した。未就学児から大人まで広い世代に参加してもらえるよう、難易度が低く短時間で取り組める内容のものを選定した。参加者には、講座の要点をまとめた「博士カード」を配布し、カードを集める楽しさを取り入れながら、学びを深めてもらった。また、今年度は初めて展示解説会付きのワークショップを実施。博物館常設展示室にて30分の展示解説を行い、その後30分のワークショップを行う計1時間のプログラムを行った。2月末以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

場 所:ふれあい体験室前エントランスホール

講師:比嘉麻乃、大濵萌子

対 象:5歳から大人まで(小学3年生以下は保護者同伴)

開催日数:44日 ※2/29~3 月末まで新型ウイルス感染防止のため中止

参加者数:912人(一日平均21人)

主 催:一般財団法人 沖縄美ら島財団

①4・5・6月「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」

内 容:体験キット№19「いろいろな玩具」に関連して、沖縄の 昔ながらの草編み玩具を画用紙やソフトテープを使っ て制作した。

日 時:2019年4月~6月の毎週土曜日

> ①10:00「カジマヤー」/②10:30「馬グヮー」 ③11:00「星コロ」/④11:30「ハブグヮー」

定 員:40人(各回10人)

参加費:300円

参加者数: 204 人 (開催日数 12 日/1 日平均 17 人)







②7・8・9月「ふれたい博士の葉脈標本」

内 容:体験キットNo.2「小さな生き物の大きな仕事」に関連して、 植物や化石を閉じ込めた封入標本を制作した。また、 8/24、9/14の4回目のみ博物館常設展の展示解説会 付きワークショップを開催し、標本の種類や見どころにつ いて詳しく解説した。

日 時:2019年7月~9月の毎週土曜日 ①10:00「サメの歯化石」/②10:30「サンダンカ」

③11:00「星砂」/④11:30「ホラシノブ」

定 員:60人(各回15人)

※8 月より定員 40 人から 60 人へ増員

参 加 費:400円

※8/24、9/14の4回目のみ博物館常設展示室の当日

入場券(2割引)を別途販売

参加者数:405人(開催日数11日/1日平均37人)

※9/21 は台風のため中止







③10・11・12月「ペーパービーズのアクセサリーづくり」

内 容:博物館企画展「台湾展」に関連して、台湾原住民が装飾品に用いるビーズに着目し、不要になったポスターを

利用してペーパービーズのアクセサリーを制作した。

日 時:2019年10月~12月の毎週土曜日 ①10:00/②10:45/③11:30

定 員:30人(各回10人)

参加費:300円

参加者数: 222 人 (開催日数 14 日/1 日平均 16 人)







④1・2・3月「ふれたい博士のびんがたデザイン」

内 容:体験キットNo.21「衣からわかること」に関連して、紅型 に見られる図柄の意味や形について学びながらスタン プを使って紅型模様のトートバッグを制作した。

日 時:2020年1月~3月の毎週土曜日 ①10:00/②10:30/③11:00/④11:30

定 員:40人(各回10人)

参 加 費:400円

参加者数:81人(開催日数7日/1日平均12人)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため 2/29 以降

中止







(2) ふれあい体験室ワークショップ特別編

①第 12 回 沖縄県立博物館・美術館 移動展 in 伊江島 「かんたん化石のレプリカづくり」

内 容:上記催事の一環として、体験キットNo.10「化石」より、 プラスチック樹脂粘土を用いてアンモナイトや三葉虫

などの化石のレプリカを制作した。

日 時:2020年2月2日(日)

10:00/211:00/313:00/414:30

場 所:伊江村農村環境改善センター講 師:比嘉麻乃(沖縄美ら島財団)

定 員:60人(各回15人)

参加費:300円 参加者数:65人







X ボランティア養成事業

1 目的

沖縄県立博物館・美術館は県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として「ボランティア」を導入している。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としている。

2 ボランティアの活動内容

(1) ボランティアの種類

- ◇博物館ボランティア
- ◇ふれあい体験室専属ボランティア
- (2)活動の種類・活動内容

博物館ボランティア □博物館ボランティア	ィア
①展示解説ガイド	・学校向け常設展示解説補助(主に学習プログラム対応)
②体験学習サポート	・学校団体、教職員向け講座対応 : 誘導、民具体験学習の支援 ・ふれあい体験室支援: ふれあい体験室における活動支援 体験学習教室支援: 体験学習・各種講座 ・移動展等における補助 ・各種行事の際の補助
③資料整理活動	・新聞スクラップ等
④その他	・ボランティア間の連絡 ・各種刊行物の発送業務 ・沖縄美ら島財団(指定管理者)主催催事支援 ・ふれあい体験室 IPM 清掃 ※原則:毎月第4月曜日13:20~
■総合展示部門ガイドボ	ランティア
①案内型ガイド ②待機型ガイド (ジンブン BOX)	※博物館ボランティアのうち、ガイドライセンス保持者・総合展示部門解説ガイド(学校団体/一般来館者)・総合展示部門における展示解説
ふれあい体験室具	享属ボランティア
○ふれあい体験室専属ボランティア	ふれあい体験室支援 ⇒ 土・日・祝日における活動

ボランティア養成事業の実施状況

(1) 第4回総合展示部門ガイドボランティア養成講座、及びふれあい体験室専属ボランティ ア養成事業について

第4回総合展示部門ガイドボランティア養成講座については、9名が新規登録された。

図 1-① 養成講座実施要項

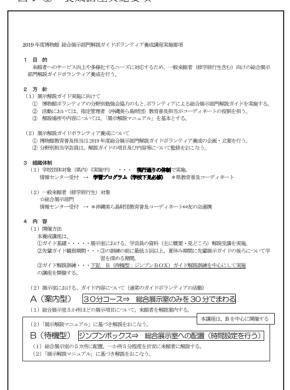


図 1-② 養成講座実施要項



(別紙) 2019 年度 沖縄県立博物館・美術館 **日程表** 1 「第4回博物館 総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座 (①ガイド基礎)」

(I)	5月9日(木)	13:00~13:50	○開講 ○ガイドの心得についてほか	教育普及
w	- /			
	(常設展示室)	14:00~15:00	○人類分野の展示解説について	山崎 真治
			(展示解説会と併せて講座開催)	
2	5月21日 (火)	14:00~15:00	○美術工芸分野の展示解説について	篠原 あかね
	(常設展示室)	15:00~15:30	●学芸員への質問等	
3	5月29日 (水)	14:00~15:00	○生物分野の展示解説について	菊川 章
	(常設展示室)	15:00~15:30	●学芸員への質問等	
4	6月7日(金)	14:00~15:00	○考古分野の展示解説について	山本 正昭
	(常設展示室)	15:00~15:30	●学芸員への質問等	
6	6月13日(木)	14:00~15:00	○歴史分野の展示解説について(古琉球)	久部良 和子
	(常設展示室)		(展示解説会と併せて講座開催)	
		15:00~15:30	●学芸員への質問等	
6	6月19日(水)	14:00~15:00	○歴史分野の展示解説について(近現代)	外間 一先
		15:00~15:30	●学芸員への質問等	
7	6月25日 (火)	14:00~15:00	○民俗分野の展示解説について	大湾 ゆかり
		15:00~15:30	学芸員への質問等	
8	7月11日(木)	14:00~15:00	○地学分野の展示解説について	宇佐美 賢
	(常設展示室)		(展示解説会と併せて講座開催)	
	(実習室 (予))	15:00~15:30	●学芸員への質問等	
	0465	15:30~16:00	○今後の取組みについて、打合せ	

各部門原元に重点を置いた解認を実施。 ボランティアが学校団体の支援に入った時、及び一般実館者(修学旅行生含む)への解説ガイドを想定し展示室の見どころを紹介、解説してもらう。

日程	52 「第4回博物館	館 総合展示部門解説ガー	イドボランティア養成講座」(③カ	『イド訓練)」
	開催日・場所	時間	内 容	担当者
1	8月27日 (火)	14:00~15:50		県教育普及
2	8月29日(木)	14:00~15:50	×2つのゲループ に分かれて	県教育普及
3	9月4日 (水)	14:00~15:50	行います。	県教育普及
4	9月6日(金)	14:00~15:50	14:00~14:50	県教育普及
(5)	9月10日(火)	14:00~15:50	グループ1 (50分程度)	県教育普及
6	9月12日 (木)	14:00~15:50	分野①→2→3	県教育普及
7	9月18日 (水)	14:00~15:50	(後半④5へ)	県教育普及
(8)	9月20日(金)	14:00~15:50		県教育普及
			15:00~15:50 が №7:2 (50分程度) 分野 4→5 (後半①2/3へ) ※3回以上の参加必須	

図2 養成講座日程

「ふれあい体験室専属ボランティア」 養成講座の実施について

※令和元年度は、当該ボランティア養成講座受講は3 名募集があり、実施を行ったが、全員が諸事情によ り辞退したため、新規の交付者はなし。

(2) 第4回総合展示部門ガイドボランティア養成講座の様子

○5月9日~7月11日(計8回)ガイド基礎講座

口	開催日・場所	時間	内容	担当者
1	5月9日(木) 常設展示室	13:00~13:50 14:00~15:00	○開講 ○ガイドの心得についてほか ○人類分野の展示解説について (展示解説会と併せて講座開催)	県教育普及 山崎 真治
2	5月21日(火) 常設展示室	14:00~15:00 15:00~15:30	○美術工芸分野の展示解説について●学芸員への質問等	篠原 あかね
3	5月29日(水) 常設展示室	14:00~15:00 15:00~15:30	○生物分野の展示解説について●学芸員への質問等	菊川 章
4	6月7日(金) 常設展示室	14:00~15:00 15:00~15:30	○考古分野の展示解説について●学芸員への質問等	山本 正昭
(5)	6月13日(木) 常設展示室	14:00~15:00 15:00~15:30	○歴史分野の展示解説について(古琉球) (展示解説会と併せて講座開催)●学芸員への質問等	久部良 和子
6	6月19日(水) 常設展示室	14:00~15:00 15:00~15:30	○歴史分野の展示解説について(近現代) ●学芸員への質問等	外間 一先
7	6月25日(火) 常設展示室	14:00~15:00 15:00~15:30	○民俗分野の展示解説について●学芸員への質問等	大湾 ゆかり
8	7月11日(木) 常設展示室	14:00~15:00 15:00~15:30 15:30~16:00	○地学分野の展示解説について (展示解説会と併せて講座開催)●学芸員への質問等○今後の取組みについて、打合せ	宇佐美

[※]学芸員による総合展示室での展示解説 (7分野)及び担当分野について、主に総合展示、また 必要に応じて各部門展示に重点を置いた解説を実施。

ボランティアが学校団体の支援に入った時、及び一般来館者 (修学旅行生含む) への解説ガイドを想定し展示室の見どころを紹介、解説してもらう。

○8月27日~9月20日(計8回)ガイド訓練

口	開催日	時間	内 容	担当者
1	8月27日(火)	14:00~15:50		
2	8月29日(木)	14:00~15:50		
3	9月4日(水)	14:00~15:50		
4	9月6日(金)	14:00~15:50	養成講座参加者相互で常設展	県教育普及
(5)	9月10日(火)	14:00~15:50	示室をガイドし、訓練を行っ	
6	9月12日(木)	14:00~15:50	た。	
7	9月18日(水)	14:00~15:50		
8	9月20日(金)	14:00~15:50		

[※]養成講座受講者は、上記①~⑧までの訓練日において、3回以上の参加を義務付けた。

[※]訓練は、当館解説ガイド「ジンブン BOX」における活動を想定(5 か所)し、各所 5 分以内のガイド解説となるよう、訓練を行った。

^{※「}ジンブン BOX」(5 か所) …①琉球王国の成立、②旧首里城正殿鐘、③進貢船、④琉球王国の滅亡、⑤米軍車両とナンバープレート

○養成講座チェック表

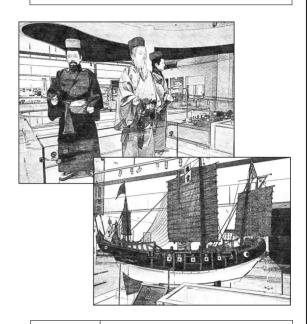
③ガイド訓練

- ①各位3回以上の参加をしてください。
- ②各回途中参加、退場はご遠慮ください。

期日	担当	ED
① 8月27日(火) 13:40集合	14:00~15:50	
② 8月29日(木) 13:40集合	14:00~15:50	
③ 9月4日(水) 13:40~集合	14:00~15:50	
④ 9月6日(金) 13:40~集合	14:00~15:50	
⑤ 9月10日(火) 13:40~集合	14:00~15:50	
⑥ 9月12日(木) 13:40~集合	14:00~15:50	
⑦ 9月18日(水) 13:40~集合	14:00~15:50	
8 9月20日(金)13:40~集合	14:00~15:50	

担当者(大川または玉城)からサインをもらって下さい

第4回総合展示解説ガイド ボランティア養成講座



氏 名

第4回総合展示解説ガイドボランティア養成講座

①ガイド基礎 参加チェック

期日	田	ЕД
① 5月9日(木)	山崎 真治(人類)	
13:00集合	山岬 吴心(入規)	
② 5月21日(火)	(篠原あかね(美工)	
13:40集合	保保の月14 (美工)	
③ 5月29日(水)	菊川 章 (牛物)	
13:40~集合	利川 早 (土物)	
④ 6月7日(金)	川本 正昭(考古)	
13:40~集合		
⑤ 6月13日(木)	久部良和子(歴史)	
13:40~集合		
⑥ 6月19日(水)	外間 一先(歴史)	
13:40~集合	/ NO / LEX/	
⑦ 6月25日(火)	大湾ゆかり(民俗)	
13:40~集合	ハラツルグ(以口)	
⑧ 7月11日(木)	字佐美 賢(地学)	
13:40~集合	丁位大 (見(地子)	

担当者(大川または玉城)からサインをもらって下さい

②夏休み先輩ガイド観察 参加チェック

①期間・曜日は、7/23~8/25までの、火・水・金・日 ②活動は1時間半~2時間をめどに行って下さい。 ③各位3回以上の参加をしてください。

参	加日	参加時間	印	参加日	参加時間	印
	列	10:00 ~ 12:00	* лі	/		
,	/	: ~		/	: ~ :	
,	/	~		/		
,	/	: ~		/	: ~ :	
,	/	: ~		/	: ~ :	

担当者(大川または玉城)からサインをもらって下さい

<別紙資料> ボランティア養成事業

沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項

平成 20 年 2 月 13 日

館長決済

(趣旨)

第1条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・ 充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア(以下「博物館ボランティア」 という。)を置くことができる。

(博物館ボランティアの活動)

- 第2条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。
 - (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
 - (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

(登録等)

- 第3条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票(第1号様式)により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長(以下「館長」という。)が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿
 - (第2様式)へ登載を行う。
 - 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し、博物館ボランティア登録証(第3号様式)を交付する。
 - 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティ アが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
 - 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消すことができる。

(研修)

第4条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、随時研修会を開催する。

(ボランティア室の設置)

第5条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

(庶務等)

- 第6条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。
 - 2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

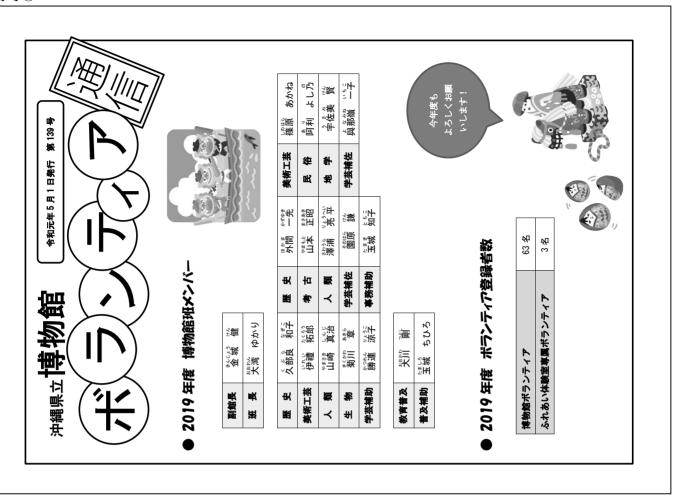
(雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

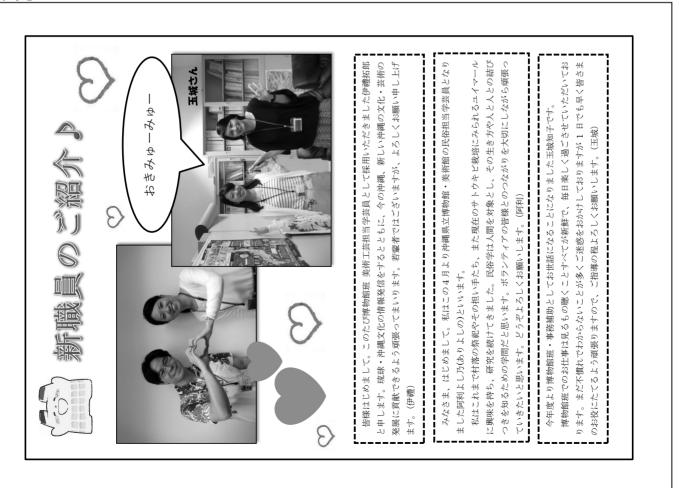
付則

- この要項は、平成5年7月1日から実施する。
- この要項は、平成12年8月1日から実施する。
- この要項は、平成20年2月13日から実施する。

5月号①



5月号②



な争市と公口でと

山本正昭 (考古担当学芸員)

S 特別展『グスク・ぐすく・城』への道

S

※ 対象:一般 5月の教育者及関連催奉

山崎真治(人類担当学芸員) 5/9 (木) 14:00~15:00 博物館常設展示解説会 開催5分前にふれあい体験室前に集合。

5/11 (土) 14:00~16:00 学芸員講座 1F博物館講座

A

「今、明かされる琉球王国の手わざ一琉球王国文化遺産集積・再興事業」 5/18 (土) 14:00~16:00 博物館文化講座 3F 講堂

5/25 (土) 14:00~15:00 博物館パックヤードツアー 篠原あかね (美工担当学芸員) 「洞窟の謎と魅力」 石原与四郎(福岡大学理学部助教)

※ 要予約:当日先着順(13:00~ 総合案内にて受付)

開催5分前にふれあい体験室前に集合。

※ 対象: 博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア

5/27 (月) 13:20~15:00 集合場所:ふれあい体験室前 少れあい存職権 IbN 通都

展示物のほこり落としなど、6名以上募集します。

移合展示部門解説ガムドボレンティアの徴成群歴

		盤田	場所	本本
⊖	(半) 6/9	5/9 (木) 13:00~15:00	常設展示室	開講、ガイドの心得ほか 人類分野の展示解説
0	5/21 (水)	5/21 (火) 14:00~15:30	常設展示室	美術工芸分野の展示解説 学芸員への質問等
6	5/29 (水)	14:00~15:30	常設展示室	生物分野の展示解説 学芸員への質問等

~4~5月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認へだない)~4~ 対象: 博物館ボランティア、ふれあい専属ボランティア

民俗勉強会・・5/3 (金) 10:00~15:00 場所:ボランティア室 音声ガイドを利用しての勉強会 *

人類学・自然史勉強会・・5/10(金)10:00~12:00 場所:ボランティア室 年代表記について 山崎真治 (人類担当学芸員) *

歴史・考古勉強会・・5/11(土) 10:00~12:00 場所:ボランティア室、新収蔵品展 <u>*</u> 新収蔵品展解説 10:40~ 久部良和子(歴史担当学芸員) • 年間計画 新役員選任

5月号④



琉珠列島内には多くのグスクがあります が、これらのうち最もお薦めのグスクを挙 げることはかなり困難なように思います。 それはグスクと言っても、様々な姿で存在 しており、一様にイメージを持ちえない遺 跡であることがその理由として挙げること ができます。例えば多くの観光客が訪れる 首里城もグスクですし、那覇市の国場川の 中州に立地する御物グスクや御嶽だけが存 ります。

このようにグスクの実態が曖昧模糊とし たものであったことから、一九大〇年代か らグスク論争が展開されていくことになり ます。この論争では多くの意見が出され、 議論が交わされていきますが、グスクを一 つのイメージに押し込めることはできない まま、終息していくことになります。

そもそもグスクを一つのイメージへ固定 させることは、その実態を見ても無理があ るのは言うまでもありません。よって多く のグスクがどのような特徴を持っているの か、その実態について明らかにしていくこ とが、肝要に思います。

グスクを見ていくと、①丘陵上に立地し ている、②十四~十五世紀の遺物が出土 探集される。 ③石積みや堀切などで閉塞す る。④拝所が存在している、といった共通 性を見出すことができます。もちろんこれ らに当てはまらないグスクも存在します。 が、あくまでグスクの中で共通性が多いの がこの四点になります。

この四点全てに当てはまるグスクは全て 按司伝承を持っているグスクになり、これ らのグスクの主とされる「按司」、「てだ」、 「世の主」が地域を統括し、そして三山と いう国家へと形成がなされていくという。 歴史叙述へと含み込むことができます。

個々のグスクを一つのイメージで捉える のではなく、共通性の多い特徴を取り上げ そこから浮かび上がってくる別の特徴が捉 えられてくること。そして、それを歴史的 な意味合いの中で見ていくことがグスクを **迟えていく上で最も理解が突まる児童であ** ると思われます。

皆さんはグスクを訪れた時、そこで見た ものを考えながら見ていくと、これまでと は異なる姿がひょっとすると見えてくるか もしれません。



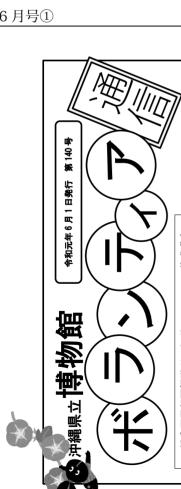
首里城



御物グスク

具志頭上グスクの拝所

かまモンだもん



ボランティア通信

平成31年5月1日 139号

- ※M個※八 沖縄美の島財団

おきみゅーGW ワークショップフェスタ を実施します

また、イベンドニよってはポランティアさんのサポートをいただきたい内容もございます。少しの時間だけ 4/27~5/6 まで当館では、子どもから大人まで遊んで楽しむイベントを企画しました! ボランティアの皆さんも是非ご家族やお友達と気軽にご参加ください♪ でも大歓迎です!よろしくおねがいします。



沖縄のアダン薬細工のおもちゃをクラフトナープでつくってみよう! ふれたい博士のてづくりおもちゃ【4・5・6 月】

定員:各回 10 名(1 日 40 名)※当日 9:00 よりふれあい体験室で受付 会場:ふれあい体験室前 対象:5歳以上※小3以下は保護者同伴 時間:1 回目 10:00/2 回目 10:30/3 回目 11:00/4 回目 11:30 日付:4/27(土)、5/4(土) 参加費:300円



おしゃれなペーパードーズグくり

日付:5/3(金)1 回目 10:00/2 回目 10:30/3 回目 11:00/4 回目 11:30 定員:各回 15名(計60名)※各回30分前よりふれあい体験室で受付 会場:ふれあい体験室前 対象:5歳以上※小3以下は保護者同伴 期限切れのチランやポスターでビーズをしくってみよう!

ソテツの葉でおもちゃづくり、ソテツの葉で「虫かご」や「めがね」等おもちゃづくりにチャレンジします!

参加費:無料 ※当日先着順 正面入口前で受付 日付:5/4(土)、5/5(日)時間:13:00~15:00 会場:正面入口前(屋外) 定員:30名



6月号①

歴史分野の展示解説(古琉球) 歴史分野の展示解説(近現代) 考古分野の展示解説 民俗分野の展示解説 地学分野の展示解説 外区 • 6月の定例会は、組踊鑑賞会への参加(予定)にかえます。 • 「花売の縁」 14:00 開演 移合表示都門解説ガイドボランティアの養成酵座 ボランティア室 ボランティア室 ボランティア室 ボランティア室 ボランティア室 集合場所 見学後、昼食会を予定しています。 6/13 (木) 13:40~15:30 6/25 (火) 13:40~15:30 7/11 (木) 13:40~15:30 6/19 (水) 13:40~15:30 6/7 (金) 13:40~15:30

~4~6月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください)~4~ 対象:博物館ボランティア、ふれあい専属ボランティア

民俗勉強会・・6/14(金)9:50~ 集合場所: ボランティア室

車のない人は、募集用紙の氏名の後に〇をして下さい。

・参加希望者は、6/7(金)までに申込んで下さい(保険、昼食予約のため)。

歴史・考古勉強会・・6/29(土)13:00~ 集合場所:国立劇場おきなわ

・切符を一括購入するため、早めに記入して下さい。 チケット代: ¥3100

❖ 内容が変更する場合もありますので、事前にご確認下さい。

参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。

.....

€

6

0

@

0

生田

を またく 公コーク

~グスクの始まりとグスク時代の始まりについて ~

沖縄本島においては 11 世紀後半には普天間 後原第二遺跡や後兼久原遺跡のように大規模 な掘立柱建物を有する集落遺跡が主に沖縄本 美諸島地域と同様に玉縁白磁碗、カムイヤキ、 以上のように見るとグスク時代は琉球列島 あったということができ、この息吹が十分に浸 の北方から流入してきた新たな時代の息吹で あしてからグスクと呼ばれる遺跡が表れ出て くるという時代の流れになります。

島中部の西海岸沿いに見られるようになり、奄 滑石製石鍋が出土しています。

うになります。しかし、グスク時代はそれより

も先駆けて 11 世紀後半頃に開始します。その 始まりを示すのが、中国産の玉縁白磁碗と徳之 島産のカムイヤキ、長崎県西彼杵半島産の滑石 製石鍋が琉球列島各地へ流通していく点にあ ります。これらは奄美諸島から八重山諸島にお けるグスク時代の遺跡から出土していること から、以前までは先島地域と沖縄本島・奄美諸 島地域がそれぞれ別の文化圏であったのが、こ

城久遺跡群から検出された大型建物跡の

カムイヤキ窯跡出土のカムイヤキ (伊仙町歴史民俗資料

や奄美諸島地域では容器として土器が用いら

れていましたが、土器よりも耐久性があり、気 密性の高いカムイヤキは使い勝手が良かった のか瞬く間に琉球列島各地へと普及していき

ヤキ窯』がつくられます。それまでは沖縄本島

で、琉球列島では初めてとなる陶器窯『カムイ

このような下地があって、11 世紀に徳之島

いたことが判明しています。

普天間後原第二遺跡から検出された建物

6月の教育普及関連儒事

6月号③

※ 対象:一般

6/8 (土) 9:00~12:30 学芸員講座 ぐしちゃん浜~ホロホローの森 「学芸員といくフィールドツアー① 沖縄本島南部の自然観察に行こう!」

菊川章 (生物担当学芸員)、宇佐美賢 (地学担当学芸員)

事前申込(098-941-8200)⇒ 5/18 (土) 現在、定員に達したため、キャンセル待ち受付中。

※ 現地集合・現地解散となります。

※ 荒天時、安全管理のため中止とする場合があります。

※ 軍手をご持参下さい。 ※ 日焼け・虫刺され・ケガ防止のため、長袖・長ズボン・帽子をご着用下さい。 ※ 林内の遊歩道と海岸の岩場を歩きますので、サンダルは厳禁です。

6/13 (木) 14:00~15:00 博物館常設展示解説会 久部良和子(歴史担当学芸員)

6/15 (土) 14:00~16:00 博物館文化講座 3F 講堂 開催5分前にふれあい体験室前に集合。

「人に生まれて良かったと思える虫のはなし」 宮竹貴久(岡山大学教授)

6/22 (土) 14:00~15:00 **博物館パックヤードツアー** 山本正昭 (考古担当学芸員) 開始5分前にふれあい体験室前に集合。

※ 要予約:当日先着順(13:00~ 総合案内にて受付)

ふれめい存取物 植様作業

※ 対象:博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア

※ 6 月は IPM 清掃は行わないかわりに、館内燻蒸に向けて「養生・復旧作業」を行います。各作業とも2時間ま ど予定しています。

燻蒸消毒期間 6/28 (金) ~7/6(土)

*

	ŧ	米口場が	神工学
***	6/38 (♣) 13:30=.	東路観れいまない	資料を棚から降ろし、テーブルに広げる。
₩	~07:01 (用) 07/0	る人にのいる歌手引	コンセント等をビニールでふさぐ etc.
40	7 (A) 13:00:	乗率強力 いキケミ	資料をアルコールで拭き、棚に戻す。
Ш	~07.61 (用) 6//	ふんのい 予照 単門	コンセント等のビニールを外す etc.

※ 対象:曜日班の世話係、勉強会の世話係 ボランティア連絡会

〇 6/18 (火) 15:00~ 場所:ボランティア室

※ 対象:ガイドの資格を持つ方

0 6/13 (木) 11:00~ 場所: 実習室

協合展示部門解説ボランティアミーティング

ク時代からですが、グスク時代の始まりはグス

グスクと呼ばれる遺跡が出現するのはグス

クが出現する以前にさかのぼります。少し煩雑 ですが、現在のように防御施設を伴うようなグ スクは概ね 14 世紀後半頃から多く見られるよ の時期に入ると琉球列島全域が共通した文化

この切っ掛けとなったのが喜界島の城久遺 跡群になります。城久遺跡群では9世紀頃に当 たる中国や朝鮮半島、日本本土からの舶載品が 多く出土していることからその後、展開される グスク時代に見る広域流通をかいま見るよう な状況が現れます。また、11世紀後半には大規 模な掘立柱建物や規格化された建物跡が484棟 も見られることから、同遺跡群は琉球列島の中 でも最大規模の遺跡であると言えると共に、多 くの人々が喜界島を足場にして交易を行って

圏をつくりあげていったと言えます。





かまたく公コラム

7月号③

L本 正昭 (考古担当学芸員)

~ グスクからうかがえる争乱の痕跡とは ~

グスクが築かれた時代は争いが激しくなっていった時代でもありました。グスクはそのような 時代的背景を多分に含み込んでいる遺跡でもあります。

例えば堀切や複雑な出入口といった様々な防御するための工夫がグスク内の各所に施されてい きました。また、石積みを高層化し、その上に足場となる空間を設けることで、全ての方向に対 して睨みを利かせるといったこともグスクから見て取ることができます。防御のための工夫は争 いの規模が大きくなるにしたがって、卓越した形へと変わっていきます グスクの発掘調査に目を向けると小札、八双金物、鞐といった武具の一部や切羽、鍔、目釘、 **兜金といった刀装具、更には鉄鏃や火器兵器(火矢)の弾とされる石球などが出土しています。** このことから、大規模な戦いがグスクの周辺で展開されていたことが窺われます。

これらグスクにおいての防御機能は 13 世紀頃から、戦いに関係する武器や武具は 12 世紀頃か ら見られますが、14 世紀に入ってからその数と種類が激増していくことになります。その原因に ついては、①他地域との物流が活発になったことで交易による権益の奪い合い、②農耕の普及に よる富(余剰物)の蓄積を端に発した蔵物の奪い合い、③富の蓄積を背景とした権力者による権 益拡大を狙った武力行使が主な理由として挙げられます。

とくに沖縄本島では争いのよる地域統合が進み、14世紀後半には根拠地を首里城、浦添グスク を拠点とする中山、今帰仁グスクを拠点とする山北、島添大里グスク、高嶺大里グスクを拠点と する山南へと、大規模なグスクを拠り所にクニとしてまとまっていきます。

しかし、その後の 1458 年に護佐丸・阿麻和利の乱でグスクが攻防の場として使われたり、治安を 維持するために北山監守が今帰仁グスクに設置されたり、倭寇から那覇湊を守るための砲台場と して屋良座森グスクが 1553 年に築かれたように、軍事的な緊張状態が続いていたことが、グスク 1420 年代には中山が山北と山南を武力制圧したことで、沖縄本島で統一王権が成立しました。 の有り方から分ります。 このようにグスクは約 300 年間にわたって防御的な役割を担い続けた、琉球列島でも特質的な 貴跡であると言えるでしょう。







高層化された今帰仁グスクの石

在りし日の屋良座森グスク(阪谷写

7月の教育者及関連信号

※ 対象:一般

博物館常設展示解説会 字佐美賢(地学担当学芸員) 開催 5 分前にふれあい体験室前に集合。 7/11 (未) 14:00~15:00

[実践!骨考古学~入門編~] 澤浦亮平(人類担当学芸員) 7/13 (土) 14:00~16:00 学芸員講座

温離よる 7/20 (土) 14:00~16:00 博物館文化講座

奈良貴史

「ヒトはなぜ難産なのか?」

· 15:10~16:00 · 14:10~15:00 「人類学持論」

「ヒトの発生」 影山幾男

類川章 (生物担当学芸員)

7/27 (土) 14:00~15:00 博物館パックヤードツアー

※ 当日先着順:定員12名 (13:00~ 総合案内にて受付)

開始5分前にふれあい体験室前に集合。

※ 対象:博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア

ふためい存骸帽 Ibn 指指

0 7/22 (月) 13:20~15:00 集合場所:ふれあい体験室前

展示物のほこり落としなど、6名以上募集します。

ボランティア連絡会

※ 対象:曜日班の世話係、勉強会の世話係

※ この日だけ第3 火曜日から変更しました。

〇 7/19 (金) 15:00~ 場所:ボランティア室

◇◆~7月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認へださい)◇◆◇ 対象:博物館ボランティア、ふれあい専属ボランティア

民俗勉強会・・7/5(金)

通常の勉強会はお休みいたします。夏休み学芸員教室へのサポートをお願いします。 *

歴史・考古勉強会・・7/13(土)10:00~12:00 集合場所:ボランティア室 ① 2019年度 活動計画(後半)について② 個人発表: 辻田忠弘 *

- 17 世紀の東アツアにおける海賊問題と琉球」(オランダ旗について)

*

(1) 7/23 (火) 10:00~11:30 [② 7/24 (水) 15:00~16:30 [※ 事訂勉強会に必ず参加して下さい。

◆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。◆ 内容が変更する場合もありますので、事前にご確認下さい。



ボランティア通信

令和元年7月1日 141

- MA MENTER A MENTER

6 月より内間仁春統括が就任しました。よろしくお願い申し上げます。



就任あいさつ

沖縄県立博物館,美術館指定管理者 一財)沖縄美5島財団 統括費任者

これまで、観光関連団体で培った経験・ネットワークをいかして、観光客、とりわけ今日急増する海外観光客の 令和元年6月1日に沖縄美ら島財団、県立博物館・美術館の統括責任者を拝命しました内間でございます。 誘致に貢献できればと思います。

日本文化の多様性を国内はもとより広く国外まで発信できる拠点として、県立博物館・美術館には内外から大 きな期待が寄せられていると思いますが、収蔵資料、展示の充実とともに、観覧者と接する機会が多いボランテ イアの皆様の役割が益々重要になってまいります。

観覧者に対しての接遇含めて総合的な対応力を強化いただき、世界に誇れる沖縄文化の発信拠点として、ボ シンティアの皆様には自信と誇りをもって共に運営に取り組んでいただければ幸いです。

夏休みの OkiMu は、「ジブリ」と「組踊」で盛り上げます

「シブンの大体戦後一ナウンカかのマーニーボでー」 2019年7月13日(土) ~ 2019年9月8日(日)

*ボランティア証提示では、入室できません。

2019年7月11日(木) ~ 2019年8月25日(日) *調整中です。 「THE KUMIODOR! 300~組踊の歴史と拡がり~」

メふれあい体験室も混み合うことが予想されます。ボランティアさんのサポートがあればあるほど 嬉しいです。引き続きよろしくお願いいたします。 고

でまたン☆コラム 其の同

一グスクと権力一 ゲスクに拠る人々の姿にせまる



山本 正昭 (考古担当学芸員)

れらを建てる技術者や瓦を造るための技術者、更 こは資材を調達する技術者といった様々な人々 と関係が取れるというような人物像が浮かび上 礎石・基壇の建物が見られることから、首長はそ

高い石積みで囲われた中の、瓦が葺かれた荘厳 な建物内に住まう、もしくは政務を執る首長の姿 は、他の人々を圧倒し、多大な権力を有したであ ろうことが一目で分ります。このように首長の存 在感を演出するための空間が大規模なグスク内 部に見ることができます。

> 勝連グスク出土の 中国業

がってきます。

浦添グスク採取 高麗系瓦

クの発掘調査で明らかになっています。日本本土 から出土しています。このように対外交易によっ て、首長が富の蓄積を積極的に行っていたと共に それらを背景にして、国家としての基礎を作り上 また、首長は周辺地域との交易で得た希少性の **高い中国産の陶磁器を所有していたことがグス** や中国大陸方面から運び込まれた銭貨がグスク げていきました。

1429 年に沖縄本島を統一した中山国の拠点で ある首里城京の内跡から、中国産や東南アジア産 陶磁器の大型製品が大量に出土しています。これ らはまさに中山王を頂点にした国家が対外交易 で得た最高の宝物であったことが解る資料です。

一方で、グスクに拠る首長を支えた人々の集落 間がグスクの近くにあったことは、様々な人々を 上しています。首長に従う多くの人々が住まう空 **包えるだけの権力を首長が持っていたことが想** がその近くにありました。発掘調査が広範囲に行 生地産のグスク土器といった日用品が大量に出 われた今帰仁ムラ跡では中国産陶磁器の画や魔、 像されます。

> グスク時代において、各地域を統べた首長には 「按司」「ていだ」「よのぬし」等の名称が付けら れていたことが、後世に編纂された史料で窺うこ とができます。それら首長の性格を最も端的に表 しているのが、大規模なグスクになります。大規

首里城京の内跡出土の陶撥

ピールし、自身に従う人々を増やしていったこと このようなグスクに拠った人々は交易を行い、 利益を増やしてしていくことで自己の威信をア が大規模なグスクから読み取ることができます。

模なグスクを築くためには平場に造成を行い、石

積みを立ち上げていくことが必要条件となって きます。そのためには多くの人々を集め、統率す る力を持つ人物であったことが解ります。加え て、大規模なグスクの内部に規格化された瓦葺き

8月の教育者及関連信奉

※ 対象:一般

3F 講師 8/3 (土) 14:00~16:00 組踊上演 300 周年記念特別講演

8/8 (木) 14:00~15:00 博物館常設展示解説会 「玉城朝薫と組踊」 田名真之(館長)

篠原あかね (美工担当学芸員)

8/10 (土) 9:30~12:00 学芸員講座 開催 5 分前にふれあい体験室前に集合。

「博物館バックヤード探検」 大川剛 (教育普及担当学芸員)

※ 要申込み:対象は小 3~中 3、定員 15 名(電話・来館にて受付。1/16(火)~定員に達し次第終了)

温離よめ 「石にかわって話したい!」 大城逸朗(理学博士) 8/17 (土) 14:00~16:00 博物館文化講座

8/24 (土) 14:00~15:00 博物館パックヤードツアー 山崎真治 (人類担当学芸員) 開始5分前にふれあい体験室前に集合。 A

※ 当日先着順:定員 12 名(当日 13:00~ 総合案内にて受付)

※ 対象:博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア 少れめい存職側 IbM 漸都

08/26 (月) 13:20~15:00 集合場所:ふれあい体験室前 展示物のほこり落としなど、6名以上募集します ※ 対象:曜日班の世話係、勉強会の世話係

ボランティア連絡会

〇 8/20 (火) 15:00~ 場所:ボランティア室

◇◆◇8月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認ください) 対象:博物館ボランティア、ふれあい専属ボランティア

R俗勉強会・・8/2 (金) 10:00~15:00 集合場所:ボランティア室・「海人工房見学」の振り返り学習

*

・ 葬墓制について 映像を見ながら勉強会

歴史・考古勉強会・・8/3 (土) 14:00~16:00 集合場所: 講堂 講師:田名真之(館長) 「組踊上演 300 周年記念 特別講演」

×

(3E)

注意) ① 勉強会 第二土曜日から第一へ変更 ② 混雑が予想されます! 早めの入場をお願いします。

美工勉強会・・8/23 (金) 13:00~15:00 集合場所:城間紅型工房 (首里山川) ② 琉球藍染の工程と実習 学習内容:① 紅型の工程 館外学習:城間紅型工房 *

※ 材料費 1000 円鎖収します。ハンカチーフを作ります。※ 日程を変更する場合がありますので、掲示板をご覧ください。※ 8/20(火)までに申込んで下さい。



8月号③



9月号①



かまたく公コラム

1本 正昭(考古担当学芸員)

~ グスクからうかがえる争乱の痕跡とは ~

グスクが築かれた時代は争いが激しくなっていった時代でもありました。グスクはそのような 時代的背景を多分に含み込んでいる遺跡でもあります。

して睨みを利かせるといったこともグスクから見て取ることができます。防御のための工夫は争 例えば堀切や複雑な出入口といった様々な防御するための工夫がグスク内の各所に施されてい きました。また、石積みを高層化し、その上に足場となる空間を設けることで、全ての方向に対 いの規模が大きくなるにしたがって、卓越した形へと変わっていきます。

鳄、目釘、 兜金といった刀装具、更には鉄鏃や火器兵器(火矢)の弾とされる石球などが出土しています。 グスクの発掘調査に目を向けると小札、八双金物、鞐といった武具の一部や切羽、 このことから、大規模な戦いがグスクの周辺で展開されていたことが窺われます。

これらグスクにおいての防御機能は13 世紀頃から、戦いに関係する武器や武具は12 世紀頃か ら見られますが、14 世紀に入ってからその数と種類が激増していくことになります。その原因に ついては、①他地域との物流が活発になったことで交易による権益の奪い合い、②農耕の普及に よる富(余剰物)の蓄積を端に発した蔵物の奪い合い、③富の蓄積を背景とした権力者による権 益拡大を狙った武力行使が主な理由として挙げられます。

とくに沖縄本島では争いのよる地域統合が進み、14 世紀後半には根拠地を首里城、浦添グスク **알拠点とする中山、今帰仁グスクを拠点とする山北、島添大里グスク、高嶺大里グスクを拠点と** する山南へと、大規模なグスクを拠り所にクニとしてまとまっていきます。

しかし、その後の1458年に護佐丸・阿麻和利の乱でグスクが攻防の場として使われたり、治安を 維持するために北山監守が今帰仁グスクに設置されたり、倭寇から那覇湊を守るための砲台場と して屋良座森グスクが1553年に築かれたように、軍事的な緊張状態が続いていたことが、グスク 1420 年代には中山が山北と山南を武力制圧したことで、沖縄本島で統一王権が成立しました。 の有り方から分ります。 このようにグスクは約 300 年間にわたって防御的な役割を担い続けた、琉球列島でも特質的な 貴跡であると言えるでしょう。







高層化された今帰仁グスクの石

在りし日の屋良座森グスク(阪谷写

9月の教育普及関連信事・その他

※ 対象:一般

9/7 (土) 14:00~16:00 学芸員講座

「八重山における神役の継承」 阿利よし乃 (民俗担当学芸員)

9/12 (木) 14:00~15:00 **博物館常設展示解説会** 外間一先(歴史担当学芸員) 開催5分前にふれあい体験室前に集合。

博物館講座室 9/13 (金) 18:00~19:30 古文書勉強会 [入門編]

「野村エエ四上巻」三線名人 12 人の略伝 田名真之(館長)

9/21 (土) 14:00~16:00 博物館文化講座 3F 講堂

※ 当日先着80 席(予約不要) ※ 参加費500 円

「ハイサイ沖縄~沖縄を見つめて30年~」 呉密察(故宮博物院 院長)

9/28 (土) 14:00~15:00 博物館パックヤードツアー 大湾ゆかり (民俗担当学芸員・班長) 開始5分前にふれあい体験室前に集合。

※ 当日先着順:定員 12 名(当日 13:00~ 総合案内にて受付)

ふれあい存款側 Ibm 消毒

※ 対象: 博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア

0 9/24 (火) 13:20~15:00 集合場所: ふれあい体験室前

展示物のほこり落としなど、6名以上募集します

※ 前日の 9/23 (月) が開館、9/24 (火) が閉館となっています。

ボランティア連絡会

〇 9/19 (木) 15:00~ 場所:ボランティア室

※ 対象:曜日班の世話係、勉強会の世話係

~4~0 回の勉強公日程(詳維は掲げ板をご確認へだない)~4~ 対象:博物館ボランティア、ふれあい専属ボランティア

9/6(金)の勉強会はお休みにします。 9/7(土) 民俗担当学芸員「阿利よし乃」先生の講座へ参加して下さい。 民俗勉強会・・9/7 (土) 14:00~16:00 場所:博物館講座室 *

歴史・考古勉強会・・9/14(土)10:00~12:00 場所:ボランティア室 ②台湾展展示解説 久部良和子(歴史担当学芸員) 「琉球伝統芸能鑑賞と講演」 *

美工勉強会・・9/27(金)10:00~15:00 場所: ボランティア室シナリオの誘み合わせと勉強会・・・琉球紅型、琉球漆器 ※ 変更する場合があります。 ×

おが希望者は、掲示板に名前の記へなのwww・いつ>。内容が変更する場合もありますので、事前にご確認下さい。

9月号③

国



沖縄県立

Septembly Septembly

普段のふれあい体験室のワークショップは、30分間の ワークショップ×4回制なのですが、自然史部門展示室 にある本物の標本を見ながらより深く学んでもらうこと を目的に、今回から初めて博物館常設展示解説会とセッ トでワークショップを開催しました。

30分と短時間の解説会だったのですが、参加者は展示 るか、30 分間飽きずに聞いてもらえるのかと不安だった いました。私自身初めての展示解説会で、しっかり話せ 液浸標本、さく葉標本を見つけ出し、じっくり観察して **物かの、 慰製、 複製 (フプリカ)、 骨格標本、 昆虫標本、**

姿を見ていると緊張もほぐれ、私も楽しんで解説することができました。また、中には「展 示解説会に参加したくて来た」「自由研究としてまとめて学校に提出する」という子たちも のですが、メモを取りながら熱心に聞いてくれる方や、興味を持って耳を傾ける参加者の いて、夏期中の小中学生への需要の高さを実感しました。今後も実施していきたいと思い

次回の解説会付き特別回は、9月14日(土)11:30~12:30です。ご興味ある方はぜひ ご参加くださいませ! (ふれあい体験室 比嘉)

▼大人5名、子供10名の方にご参加いただ

きました!



▲ヤンパルクイナとシロハラクイナの違いは? 竜骨突起を見比べる参加者たち



せてくれたり。子供たちに充実した体験をさせるこ 今年は、ボランティアが体験キットや常設展示室 を紹介してくれたり、ふれあいスタッフが着物を着 10~11 月も那覇中の子供たちが参加します。 とができました。ありがとうございます。 をかけて頂けると嬉しいです。 H30 は 37 名でした。

5 分

11名

4

9/14 (土) 10/5 (土)

8/24 (土)

2名

2名

11/16 (土)

5名

9名 8

88

(麥) 6/8

8/10 (土)

8/16 (金) 8/17 (土)

学生ボランティアの受入れば、今年で3年目にな ります。受入数は年々増えており、H29 は10 名、

6名





5月から養成講座が始まり、早5ヶ月。今年は、9名の方がガ

⑤ 小波津 芳美 (8 期生)

謝花 みどり (8 期生)

9

知念 キヨ子 (8 期生)

高良實(8期生)

仲松 京子 (8 期生)

上原 美佐子 (4 期生)

(1) 4

上原 貞子 (8 期生) 伊波 理恵 (8 期生)

大城 王子 (8 期生)

9名資格取得!!

総合展示部門解説ガイド

す!これも、受講生自身の並みならぬ努力と先輩ボランティアの サポートのお陰です。今後は、博物館を盛り立てるために、お力

9/20 現在、62 名達成!!

学生ボルントイプ吸入れ

恒恒是

子河子

那颗中 2名

7/20 (土)

1名

2名

7/26 (金)

8/2 (金) 8/3 (干)

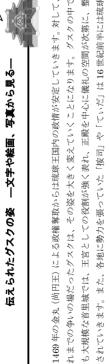
12

を貸していただけると幸いです。

イド資格を取得することができました! おめでとうございま

やまドン☆コラム 其の六

山本 正昭 (考古担当学芸員)



最も大規模な首里城では、王宮としての役割が強く表れ、正殿を中心に儀礼の空間が次第に、整 **グスクがこの時期に様変わりしていくのを絵画資料や文字資料で垣間見ることができます。あ** それまでの争いの場だったグスクは、その姿を大きく変えていくことになります。グスクの中で 蕭されていきます。また、各地に勢力を張っていた「按司」や「てぃだ」は 16 世紀前半には琉球 わせて近世期に成立した『間切図』において、「旧城」との表記でグスクの位置が数多く記されて 王国の施策によって首里へ移住させられたことにより、グスクの大半は主を失うに至ります。

他方でグスクに見られる技術は海外の人々からの目から見ても、興味深い琉球独特の構築物と ノて映っていました。それは1820年代に沖縄本島を訪れたペリー探検隊が、中城グメクを観察し、 いることから、争いの場としてのグスクの姿が消えてからも長らく、人々にその記憶が残り、 識され続けていたことも見受けられます。

アーチ門構造と要塞としての機能を考察し、「日本報告」の中で挿絵、図面付きで詳しくまとめて ハることからも分ります。

そして琉球処分後においては、グスクは名所、旧跡として関連する伝承や歴史的背景が地誌な どで紹介されていきます。更に、首里城においては文化財指定のための詳細な記録が昭和10年代 から取られるようになります。とりわけ、近代は写真機が登場したことにより、グスクのリアル な姿を写真からうかがうことができるようになったのと当時に、土産物としての絵葉書に写真が 使われたことによって、その姿が多くの人々の目に止まるようになります。 主を失った後のグスクはかつての姿を長らく留めていました。しかし、1945年の沖縄戦で壊滅 のグスクが地上から姿を消してしまうことになります。その痛々しい姿もまた、当時の写真から 的な被害を受けるとともに、その後の米軍基地構築や戦後復興による開発等で、残念ながら多く 窺い知ることができます 戦後、琉球列島の歴史を知る上でグスクは重要な歴史的遺産であることを多くの人々はこれら の出来事を通して痛感することになりました。



間切図拡大

10月の教育権及関連領事・その他

※ 対象:一般

10/5(土) 14:00~16:00 博物館文化講座 3F 講堂

'台湾から見える沖縄 現地取材レポート」 松田良孝(中華民国外交部フェロー・ジャーナリスト)

10/10 (木) 14:00~15:00 博物館常設展示解説会 伊禮拓郎 (美術工芸担当学芸員)

開催5分前にふれあい体験室前に集合。

10/12 (土) 9:00~13:00 学芸員講座

「学芸員といくフィールドツアー② 沖縄本島北部(本部半島)の自然観察へ行こう!」 宇佐美賢(地学担当学芸員)、菊川章(生物担当学芸員) ※ 参加費 50 円 ※ 要申し込み・先着12名 (9/20現在、定員に達しました。キャンセル待ち受付中) ※ 詳細は、博物館 IP にて。

10/18 (金) 18:00~19:30 古文書勉強会 [入門編]

「野村エエ四上巻」三線名人 12 人の略伝 田名真之(館長) ※ 当日先着80 席(予約不要) ※ 参加費500 円

10/26 (土) 14:00~15:00 博物館パックヤードツアー ※ 当日先着 12名 (13:00~ 総合案内にて受付) 開始5分前にふれあい体験室前に集合。

A

字佐美賢(地学担当学芸員)

ふれあい体験階 IPM 消毒

※ 対象:博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア

0 10/28 (月) 13:20~15:00 集合場所:ふれあい体験室前

展示物のほこり落としなど、6名以上募集します。

ボーンドィア会体会

※ 対象: 博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア

0 10/18 (金) 14:00~ (16:30 までには終わります。) 場所:博物館講座室

※ 10月は「ボランティア全体会」があるため、「ボランティア連絡会」は開催しません。 参加できない方は、教育普及まで連絡下さい(外線:098-851-5401)。

年(2)

~4~10月の勉強会日程(評価は掲示板をご確認へださい)~4~

対象:博物館ボランティア、ふれあい専属ボランティア

民俗勉強会・・10/4 (土) 10:00~12:00 場所:ボランティア室、民俗部門展示室 学校体験に向けての解説勉強会(民家について)

歴史・考古勉強会・・10/12 (土) 10:00~12:00 場所: ボランティア室 (疑問に思っている点を出し合い、みんなで答を見つけましょう。) 「移民について」新田宗秀 ① 個人発表(含展示室での説明) 「移民について」)② 展示室にて、解説パネル及び展示物に関するQ&A

*

◆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。◆ 内容が変更する場合もありますので、事前にご確認下さい。

10 月号③

阊 草物 沖縄県立

第145号 令和元年11月1日発行

冷和元年:10月1日 144号

J v 1 A **~** 1 H 111 AU 7 40 麼

今回は、わたしのコレクションを少し紹介します。 昨年から?ゆいむいの入り口にあるガチャガチャ 肌の上には土偶が並んでいます。最近は、来訪神 マシーン。そのタイストがあまりにも繋載で、

対象:博物館ボランティア、ふれあい専属ボランティア



何度も買ってしまうスタッフもチラホラいます(笑) 私も縄文展を期にすっかり虜になってしまいまして、 シリーズにハマっています。

韓国国立博物館のメモ、英国ナショナル 旅先でゲットしたミューシアムグッズや お土産でいただいたグッズの数々です。 ギャラリーのモネのポケットミラー、 九州国立博物館のペンなど。

私は特にご当地モノを集めるのが好きで、他にも スタバのに当地タンプラーやに当地キューピーも どれも、その場所へ行かないとゲットできない 貴重なグッズです。



集めています。

ボランティアの皆さんは、どんなグッズをお持ちですか?? 「こんな素敵なグッズもあるよ!珍しいミュージアムグッズもあるよ! 自慢の一品はこれ!」などなど、面白い情報があればぜひ教えてください~。

夏休みのふれあい体験室にご支援いただいたボランティアの皆さん、本当にありがとうございました!お客様の笑顔がたくさんあふれる夏休みとなりました。今後とも引き続きご支援の程、宜しくお願いいたします。

11月号①

ィアとして民俗勉強会などに尽力して下さい ました。近年は、病気療養中で活動はほとん ボランティアとして継続できることをとても られました。2009年より、博物館ボランテ どできずにいましたが、博物館をとても愛し 喜んでいました。嘉陽さんにとって、博物館 がカになっているのを感じました。10年と 10/12 に、3 期生の嘉陽宗博さんが亡くな て下さった方です。年に数回電話をすると、 いう長い間、本当にお疲れ様です。そして、 民俗勉強会・・11/1(金)10:00~15:00 場所:ボランティア室と民俗部門展示室学校対応に向けての展示解説の勉強会 — 民家と台所周辺 — ~4~52年の中~4~ ~4~11月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認くだみい)~4~ ありがとうございました。 本りがとう 歴史・考古勉強会・・11/9 (土) 10:00~12:00 場所:ボランティア室





+月十八日(金) ボランティア全体会



....

お加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。内容が変更する場合もありますので、事前にご確認下さい。

美工勉強会・・11/22(金)10:00~12:00 場所:ボランティア室

聞得大君・ノロ(神女)の装身具 シナリオの読み合わせと勉強会

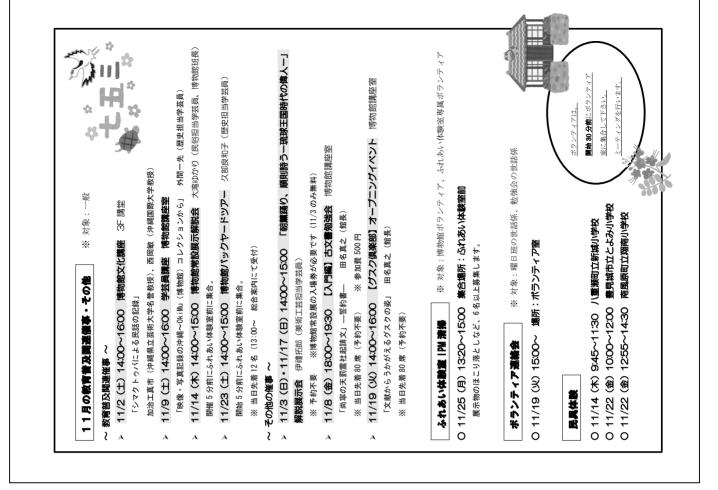
*

伊平屋の阿母加那志の正装

「尚巴志について」當間チズ子

歴代宝案(展示)の尚巴志文書を読もう その他

個人発表(含展示室での説明) ① 歴代宝案(展示)の尚巴志文② その他



11月号③

11/19(火)より、やまモン担当・博物館特別展「グスク・ぐすく・城」 開催



かきモンシュラム 其の七(ラスト)

これからのグスク像

山本 正昭 (参古担当学芸員)



世界中から多くの観光客が訪れるようになりました。
世界中から多くの観光客が訪れるようになりました。
界遺産であることを改めて認識すると共に、
す。そして、二〇〇〇年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として五か所のグスクが世球列島にとってグスクはかけがえのない歴史的遺産であることを知っていくことになりまようにグスクの調査や復元整備が行われていくようになったことで、多くの一般県民が、琉域グスクを史跡として文化財指定し、その保護を図っていくことになります。それに伴って、
す。一方で、当時の琉球政府文化財保護を員会は一九五五年に首里城跡、今帰仁グスク、中見城グスク内はキャンプ場が作られたりと、県民の憩いの場としての役割を担っていきます。一部に見られるようになります。中域グスク周辺では遊具やミニ動物園が設置されたり、豊ないなを領を消してしまったグスクがある中で、透園地や公園として整備されていく状況が戦後、おいても開発が進んだことで、多くのグスクが変貌を遂げていくことになります。地上から非洲本島内のスクに壊滅的な破壊に遭いましたが、その後の戦後復興に

地域コミュニティを担う場として活用されていきました。舞台として設定されたり、グスクに限定した観光楽内ボランティアガイドが結成されたりと、そしてグスクは現在、その活用の幅が広がってきています。それは伝統芸能や創作演劇の

担うべき役割であるといっても過言ではありません。期待されます。将来において更にグスクを保護し、活用させていくことが、現在われわれがとして、また、地域におけるアイデンティティを育成していく象徴としてその役割が今後、グスクは琉球列島を代表する遺跡として多くの人々が悠久の歴史ロマンに触れられる場所

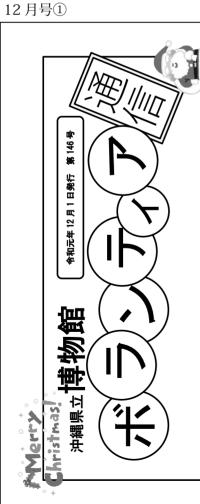
筆ではありますが、感謝申し上げて締めの言葉にしたいと思います。計七回にわたった本連載は今回が最終回になります。長くご愛読していただいた皆様に末

中縄県立博物館

--®財団法人 沖縄美ら島財団

令和元年11月1日発行 第145号

米



● 11/19(火) 博物館特別展「グスク・ぐすく・城」開催 ☆

11/19 (火)、博物館特別展「グスク・ぐすく・城」が始まりました!この展示会は、「やもモン☆コラ ム」でお馴染みの山本正昭学芸員が担当しています。オープン当日は、山本学芸員の解説会と田名真之 館長の講演が行われ、お客様やマスコミが殺到しました!展示会には首里城の模型もあり、熱心に眺め ているお客様がたくさんいました。改めて、「グスクとは何か?」を考えるきっかけを与えてくれ、楽し める展示会になっているのではないでしょうか。会期は、来年の 1/19 (日) までとなっています。ぜひ、 足を運んでみて下さい。





田名館長の講演

~4~12月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認へださい)~4~ 対象:博物館ボランティア、ふれあい専属ボランティア

民俗勉強会・・12/6(金)10:00〜

Ж

*

12月の民俗勉強会はお休みします。民具体験学習への協力。

歴史・考古勉強会・・12/14(土)10:00~12:00 場所:ボランティア室

- 琉球先人の足跡を辿る―琉球進責船ルート― 個人発表:島袋美智子 (DVD 鑑賞も含む)
 - 福建省に泡盛と沖縄そばのルーツを訪ねる
- --..。 美工勉強会・・12/27(金)1000~12:00 場所:ボランティア室() 関係大き・ノロ(神女)の装身具() 伊平屋の阿科加洲モニニュニュ *
- シナリオの読み合わせと勉強会
- ⇒ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。⇒ 内容が変更する場合もありますので、事前にご確認下さい。

ますので、見かけたら応援していただけると嬉

ラゴボウ」というコンビ名で芸人としても活動 今年の 4 月から展示交流員となり、10 月か らふれあい体験室に入りました。富川盛光とい FEC というお笑い事務所に所属し、「キンピ しています。たまにラジオやテレビにも出てい います。26 歳です。よろしくお願いします。

ふれあい体験室に新しい仲間が加わりました

トラブルも無く安全に運営することができました。ご 協力いただいたボランティアの皆様、ありがとうござ

の方にご参加いただきました。毎週たくさんのボラン

ティアさんがサポートに入ってくださったおかげで、

7月~9月までのふれあい体験室のワークショップ 「ふれたい博士の封入標本」が無事終了し、計405名

「ふれたい博士の封入標本」大盛況でした!

学生時代は建築を学んでいました。いろんな ことに興味があるので、皆さんのお話をぜひ聞 かせてください。これからどうぞよろしくお願



富川 盛光 (とみかわもりみつ)

~おきみゆーで台湾を感じる3日間~

を一堂に集めたイベントを盛りだくさんでお出迎えします!ふれあい体験室ワークショップ 今年の誕生祭は「台湾展」にちなんで、台湾の食・音楽・映画・雑貨・ワークショップなど 「ペーパービーズでアクセサリーづくり」も開催!サポート、ご参加お待ちしています。

ボランティア通信

146号 令和元年12月1日

- 編版団法人 沖縄美ら島財団



12月の教育普及国連復等・その他

※ 対象:一般

12/1(日)11:00~15:00 「朝薫踊り、順則詩うー琉球王国時代の偉人―」

解説展示会 伊禮拓郎 (美術工芸担当学芸員)

※ 予約不要 ※ 博物館常設展の入場券が必要です

12/12 (木) 14:00~15:00 博物館常設展示解説会 山本正昭 (考古担当学芸員)

開催5分前にふれあい体験室前に集合。

「館所蔵【石碑】について~残された【柘本】から考える~」 久部良和子(歴史担当学芸員) 12/14 (土) 14:00~16:00 学芸員講座

2/15 (火) 13:00~16:30 【グスク俱楽部】遺跡見学ツアー 自野湾市 「グスクを支えた人々の痕跡をめぐる遺跡見学ツアー」

た。先日は、東京の中学生や香港の高校生への対応をボランティアさんが受けてくださり、私自身

11月~12月は修学旅行の多い季節ということもあり、ボランティアガイドの申込も増えてきまし

〇ボランティアガイドの受入れが増えています

【ボランティア活動の様子・ガイド編】

も大変勉強になりました。また、修学旅行だけでなく、一般団体旅行の受入れも増えています。つ

い最近だと、福岡から「日本書紀のなかの女性たち」や「魏志倭人伝を読み解く」などの講座を開

催している福岡アジア文化塾の先生や受講生に対して実施しました。当館以外にも沖縄県立埋蔵

た!」と笑顔で感想をいただくことができ、ガイドボランティアさんの技量の高さを改めて実感しまし

た。この後にも、県外の学生さんを中心とした団体対応のスケジュールも入ってきています。

引き続きご支援のほどお願い申し上げます。(大:※)

いう、とてもマニアックというか目的意識の強い団体さんで、ボランティアさんに質問をする様子が

印象的でした。お客様からは「現地のボランティアさんのお話を聞くことができて大変うれしかっ

文化センターやガンガラーの谷、白保竿根田原洞穴遺跡の勉強のために石垣島に訪問されると

※ 参加費 100 円 ※ 先着 25名 (要申込み:11/19 (火) ~12/14 (土)、電話・総合案内にて受付) ※ 遺跡見学ツア―の詳細は、チラシまたは博物館 HP でご確認下さい。

AF 翻算 NE 2/21(土) 13:00~17:00 【グスク倶楽部】グスク展関連シンボジウム

【司会】上里隆史(法政大学沖縄文化研究所) 「形から見たグスクの原点を探る」

【登壇者】千田嘉博(奈良大学) 世界の村を囲う城について

朝鮮半島における邑城について 山元貴継(中部大学)

向井一雄(古代山城研究会) 日本本土に見られる朝鮮式山城について 山本正昭(当館学芸員) 福建省に分布する明代の城郭遺跡について

12/28 (土) 14:00~15:00 博物館パックヤードツアー 久部良和子(歴史担当学芸員)

開始5分前にふれあい体験室前に集合。

※ 当日先着12名(13:00~ 総合案内にて受付)

※ 対象:博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア ふれあい体験画 IPM 指導

O 12/24 (火・休館日) 13:20~15:00 集合場所: ふれあい体験室前 展示物のほこり落としなど、6名以上募集します。

目的:かつてガイドを体験してとてもよかったので、職員研修の一環で行いたい。歴史を中心に。

12/5(木)集合10:00 ~ 11:30 やんばる学びの森 一般 19人

目的・琉球の歴史や文化、沖縄のことを学びたい。

12/4(水)集合 9:30 ~ 11:00 東京都田園調布特別支援学校 高 2 31人

〇総合展示ガイド 団体対応のお知らせ

12/13(金)集合 8:30 ~ 10:00 茨城県立日立第一高等学校 高 2 152 人 *調整中

〇博物館をテーマにした絵本@ボランティア室(12月)

今年も子供たちによる OkiMu をテーマにした絵本が

10 冊完成しました!最新号も面白いです!かにの運

※ 対象:曜日班の世話係、勉強会の世話係 ボランティア連絡会

〇 12/17 (火) 15:00~ 場所:ボランティア室

かにの学校

るだらの

おしょうか

開始 30 分前にボランティア ーティングを行います 室に集合して下さい。 ボランティアは、

民具体製

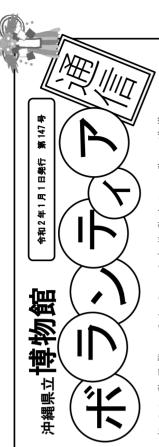
〇 12/3 (以) 9:45~12:00 豊見城市立座安小学校 〇 12/6 (金) 9:40~11:40 那覇市立小禄南小学校 〇 12/17 (火) 9:40~11:25 那覇市立安謝小学校

力豊かな子供たちの世界観を堪能してみてはいかがで

り」など、オリジナル作品の数々が完成しました。想像

にある石たちが閉館後に自慢しあう「石たちのおしゃべ 動会をテーマにした「かにの学校」や石の観察コーナー

12月号③



移動展 in 伊江島

二〇二〇年、明けましておめでとうございます。ボランティアの皆 様、旧年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願い申し上 げます

当館では、一月三十一日(金)より三日間、伊江村農村環境 改善センターで「第十二回 移動展」を開催します。

ボランティアのなかには、「移動展」がどのような取り組みか なかの一人だったりします。『教育普及報告書』によると、 地で収蔵資料を展示する取り組みとのこと。移動展を通して、

移動展は、美術館と協同で毎年開催しているのですが、実は友の会 の方々にもがっつり協力していただいています。ボランティア 毎年十人程が参加して下さいます。 いつも頭が下がる思いです

移動展は北大東島や伊平屋島となかなか行きづらい場所で開 しかし、今年は伊江島です。本部港からフ 頑張れば日帰りもできる場所です。のぞいてみることで、 動展を知る良い機会になると思います。お手伝いはハードルが いう方も、ぜひ気軽に遊びに来て下さい。「伊江村教育委員会の未発表 の考古資料」や「恐竜の骨格レプリカ」が見れますよ。私も今年は参 加ができそうなので、 一緒に移動展を満喫できたら幸いです。(玉城)

歴史・考古勉強会・・1/11(土)10:00~12:00 場所:ボランティア室

「友利・さんま事件(裁判移送問題)」

個人発表:辻本淳二

*

200 ~4~1 月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認へださい) 対象:博物館ボランティア、ふれあい専属ボランティア

民俗勉強会・・1/10 (金) *

1月の民俗勉強会はお休みします。1月10日の学校対応への参加協力お願いします。

※ 美工勉強会、人類学・自然史勉強会・・ 未定

内容が変更する場合もありますので、事前にご確認下さい。 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。

1月号②



※ 対象: 一般

1月の教育普及関連催事・その他

1/10 (金) 18:00~19:30 【入門編】古文書勉強会 「"田里筑登之親雲上"渡唐日記」(仮) 田名真之(館長)

A

開催 5 分前にふれあい体験室前に集合。

1/9 (木) 14:00~15:00 博物館常設展示解説会 大湾ゆかり (博物館班班長)

1/11 (土) 10:00~11:00/14:00~15:00 [グスク倶楽部] グスク展関連キュレータートーク

※ 参加費 500 円

※ 当日先着80 席 (予約不要)

A

3F 講師 3F グスク展展示室内 山本正昭 (考古担当学芸員) ※ 当日有効のグスク展チケットが必要です。

1/18 (土) 14:00~16:00 博物館文化講座 3F 講堂 「琉球の刺繍について」 寺田貴子 (活水女子大学 教授)

А

1/19 (日) 13:00~17:00 【グスク倶楽部】グスク展関連シンポジウムII 「遺跡から見た琉球列島のグスク時代」 A

【登壇者】村木二郎(国立歴史民俗博物館)、小野正敏(国立歴史民俗博物館) 久貝弥嗣 (宮古島市教育委員会)、池田榮史 (琉球大学法文学部) 【司会】山本正昭 (考古担当学芸員)

1/25 (土) 14:00~15:00 博物館パックヤードツアー 伊禮拓郎 (美術工芸担当学芸員) 【ゲストコメンテーター】當眞嗣一(グスク研究所主催、沖縄県立博物館元館長)

※ 当日先着12名(13:00~ 総合案内にて受付) 開始 5 分前にふれあい体験室前に集合。

※ 対象:博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア ふためい存取側 IbM 維御

〇 教育普及担当が移動展の準備等のため、1 月の IPM 清掃はお休みとします。

ボランティア連絡会

※ 対象:曜日班の世話係、勉強会の世話係

場所:ボランティア室 0 1/21 (火) 15:00~

民具体联

浦添市立中西小学校 那覇市立金城小学校 那覇市立石嶺小学校 那覇市立那覇小学校 0 1/10 (金) 9:40~11:40

開始 30 分前にボランティ ーティングを行います

ドランティアは、

那覇市立職名小学校 0 1/16 (木) 945~11:25 編 0 1/17 (魚) 940~11:35 網 0 1/21 (火) 945~11:30 網 0 1/22 (水) 945~11:30 網 0 1/23 (木) 940~11:25 網

那覇市立城南小学校

A



作年十二月十日より、美術工芸部門展 示室の第Ⅲ期常設展示が開幕しました。 二月四日から始まる「手わざ」展に関連 する作品に加え、春・新春を題に選んだ 作品も複数あります。

中でも、私の一押しは尚慎(玉川王子 朝達)筆の「梅花」です。題材は北宋の 詩人・王安石の詩である「梅花」。詩の意 味を大まかに訳すと「垣根から梅の枝が 数本伸び、寒さをこらえ一輪花開いてい る。遠くからでも雪でないとわかるのは、 **届い中から権の香りがするからだ。**」とい ったところでしょうか。もちろん元は王 安石が詠んだ詩ですが、この作品をよく 見ると、尚慎の粋な計らいに目が留まり ₩40°

パッと目に入る一字一字は、次の字に つながるようなリズミカルな筆遣いが印 象的です。しかし、粋だなと感じるのは そこではありません。この詩は、紺色に 染められた絹に記されています。

ここで持つ内容を思い出してみてくだ さい。一輪咲く椿の花は、どこから香っ て来たのか。そう、暗い中から漂ってき たのです。この書を見て、詩の意味を理 解した時、私は鳥肌が立ちました。

紺色に染められた絹はあたかも夜を想 起させ、そこに記された詩を読むと、夜 に咲く一輪の梅の花と、そこからかすか に、けれどもしっかりと漂う権の香りが 脳裏に浮かびます。詩の意味に合うよう、 この色の絹に記した尚慎の粋な計らいが 心憎いものです

詩の題ともなっている梅花は、春をあ らわす李語としても用いられます。冬の 夜といういかにも寒さが極まった情景を 表現すると同時に、梅が花開くことで冬 の終わりと春の訪れをも想起させます。 まさに断春にピッタリな作品ではないで しょうか。

さて、年が明けて、子年がやって参り ました。今年は子年の中でも、十千十二 支で言う所の「庚子」(かのえね・こうし) の年にあたります。一説には、「庚」は自 ら新しいものに改まっていこうとする状 態をあらわし、「子」は新しい生命が芽生 え始める状態をあらわすんだとか。そこ を行くと、「庚子」の年というのは「これ までのことが改まり新しいことが始まる 年一なんて解釈になるのでしょうか。今 和二年、新しい何かが起きるような予感 がして、これからがとても楽しみです

さて、そんな春ですが、王安石や尚慎 はいったいどんな気持ちで春を迎えたの でしょうか。ともに、悠久の春に想いを 馳せてみませんか?

「権抗」 尚慎筆

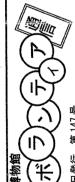




第14回 ボラの道

拓郎(美工担当学芸員) 認くの都

1月号④



*

罗回

一般財団法人

Okinawa Churashima Foundation 沖縄業の島

令和2年1月1日発行 第147号

『ミュージアム・エデュケーション研修~多様な学び手とのかかわりを考える~』 に参加してきました!

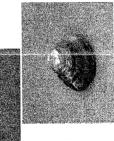
デュケーション研修」に参加しました。東京都美術館で実施され、47 都道府県の動物園、水族館、美 9月25日(水)、9月26日(木)、9月27日(金)の3日間、文化庁主催の「ミュージアム・エ

析館、博物館の関係者等、計 58 名が集まり研修を行いました。

「ワールドカフェ」では、「動物園では動物の二オイがリアルに伝わってくるので五感で体験できてい 自由に討論を行うワールドカフェなどを体験しました。「ハマグリの貝柱の数を調べる」ワークショッ び」や白百合女子大学教授の鈴木忠氏の「人はどのように学ぶのか-発達心理学からの視点-」などの る気がする。」「私の館では、何度も来てもらうためにナゾを残しすべてを話さないようにしている。」 など各館の個性や専門分野の特徴のある意見を聞くことができました。様々な視点から話を聞け、お 講義から始まり、後半は、ハマグリの敷を実際に使い、ハマグリの貝柱の数を推量、観察、対話の3 回に分けて調べるワークショップや「学びが起きる瞬間、学びが起きるとき」をテーマにグループで この研修は、博物館で行われる「学び」について実践的に知り、体験すること。自分の館で行って きた教育普及活動について振り返り、新しい試みについて考えることを目的に実施されました。前半 は、今回のエデュケーション研修のプログラム企画者の布谷知夫氏の基調講演「博物館で起こる学 プでは、ハマグリの殻をよく見ると貝柱の付着痕が2か所あり、貝柱は2個あることがかかりまし た。魚専門の学芸員は「貝柱は2個で間違いなかったと思います。」と自信満々に答えていました。 きみゆーでも活かせそうな情報も得ることができました。

今回の3日間の研修は、様々な分野、立場の視点から話を聞くことで、博物館で起きている問題や課 題に気づかされました。今回の研修を振り返りながらおきみゅーの課題や普段行っている活動を見直 今後の博物館・美術館の教育普及活動に活かせるように取り組んでいきたいと思います。(植田)

【ワールドカフェの自由メモ】



※講義・研修中の撮影禁止のため、研修で使用した資料等を掲載しています。





2月の教育普及関連催事・その他

対象:一般

2月号②

2/8 (土) 14:00~16:00 学芸員講座 博物館講座室

大湾ゆかり(博物館班班長) 2/13 (木) 14:00~15:00 博物館常設展示解説会 大川剛(教育普及担当学芸員) 「博物館における民俗研究について~ものに漲る自然と人のカ~」

開催5分前にふれあい体験室前に集合。

博物館講座室 2/14 (金) 18:00~19:30 【入門編】古文書勉強会

「"田里筑登之親雲上" 渡唐日記2 」 田名真之(館長) ※ 当日先着 80 席(予約不要) ※ 参加費 500 円 2/15 (土) 14:00~15:00 博物館文化講座 3F 講堂

2/22 (土) 14:00~15:00 博物館パックヤードツアー 阿利よしの(民俗担当学芸員) 「琉球王国のモノ作り~金工品とガラス玉を中心に~」 久保智康 (叡山学院) 開始5分前にふれあい体験室前に集合。

※ 当日先着12名(13:00~ 総合案内にて受付)

2/4 (火) に、特別展「琉球王国文化遺産集積・再興事業 手わざ -琉球王国の文化一」が開催します。 特別展「琉球王国文化遺産集積・再興事業 手わざ 一琉球王国の文化一」 ぶ関連催事 ~ 同時に、常設の美術工芸部門展示室でも「手わざの秘密」を開催しています。 2/2 (日) 14:00~15:00 常設展「手わざの秘密」展示解説会 伊禮 石郎(美工担当学芸員) 開始 5 分前に常設展示入口に集合。 ※ 定員 20 名程。博物館常設展の入場券が必要です。

2/9 (日)、2/23 (日) 14:00~15:00 特別展「琉球王国文化遺産集積・再興事業 手わざ一琉球王国の文化一」展示解説会、篠原あかね、伊禮拓郎(美工担当学芸員) 開始 5 分前に 3F 特別展示入口に集合。 ※ 定員 20 名程。博物館特別展の入場券が必要です。

ふれあい体験艦 IbM 潘梅

対象:博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア

○2月は燻蒸作業があるため、IPM清掃を行いません。「養生・復元作業」は、それそれ2時間ほどを 予定しています。

資料を棚から降ろし、テーブルに広げる。コ ※ 燻蒸消毒期間 2/17 (月) ~2/21(金) コンセント等のビニールを外す etc. ソセント等をビニールでふさぐ etc. 資料をアルコールで拭いて棚に戻す。 ふれあい体験室前 ふれあい体験室前 集合場所 2/17 (月) 13:30~ 2/21(金)13:30~ 盤田 養生 復元

ボランティア連絡会

対象:曜日班の世話係、勉強会の世話係

〇 2月はお休みします。配布資料があるので各自で確認お願いします。次回は3/17(火)15 時にて。

DAY /ALENTI 令和2年2月1日発行 第148号 匐 中編県立

■「博物館常設展の魅力を探そう!」開催のお知らせ

教育普及では、2~3月に「博物館常設展の魅力を探そう~ボランティア学習会~」を開催します。博 物館の顔である「常設展示」を理解することで、ボランティア活動をより充実させていただければ幸い です。 学習会 3 の詳細については、2 月前半を目処にメールやボランティア室の掲示にて連絡致します。

No.	超日	集合場所	蝴쐝	内容 (仮)	募集が切
-	2/7 (金) 14:00~15:00	博物館常設展入口	菊川 章 生物担当学芸員	「自然史部門展示室の 解説ポイント」を学ぶ。	然
2	3/16 (月・休館日) 14:00~ (2-3 時間)	博物館常設展入口	園原 謙 美工担当学芸員	学芸員の解説を通して、 「博物館常設展の魅力」 を学ぶ。	然
က	3/30(月・休館日) 午後で調整中	ふれあい体験室前	與那嶺 一子 美工担当学芸員	「ふれあい体験室と博物館常設展の関係性」を学ぶ。	神羅鼬

~◆~「ボランティア登録申請書」の提出~◆~

対象:次年度もボランティア活動を継続される方

「ボランティア登録申請書」を <u>2/28 (金) まで</u>にボランティア室の専用 BOX に提出して下さい。 用紙は、各曜日班の BOX に入れています。

◇◆◇2月の勉強会日程(詳細は掲示板をご確認くだない)◇◆◇ 対象:博物館ボランティア、ふれあい専属ボランティア

※ 民俗勉強会・・2/7(金) 2月の勉強会はお休みします。学校体験への参加をお願いします。

※ 歴史・考古勉強会・・2/8(土)10:00~15:00 場所:ボランティア華展・電子戦闘:外間学共員 「明治~昭和の沖縄記録写真」



【旧正月イベントを実施しました】



日年みいつけたプ

- 康州西法人 沖縄美ら島財団

民具存款

〇 2/7 (金) 9:50~11:50 南風原町立津嘉山小学校 〇 2/12 (水) 9:40~11:40 那覇市立銘対小学校

〇 2/26 (水) 9:40~11:35 那聽市立域北小学校 〇 2/27 (木) 9:45~11:30 那覇市立大道小学校 那覇市松川小学校 0 2/14 (金) 9:40~11:30

開始 30 分前にボラ*ン*ティア ーティングを行います 室に集合して下さい。

~ ボランティアの皆さんヘメッセージ

学校に選ばれる施設とは

玉城 ちひろ (教育部及補助)

2020 年度を境に、小学校の来館数や来館目的

校団体の利用の現状」を述べたい。ここ3年ほ いる。その6割以上が小学校である。修学旅行 はじめに、当館(博物館)における「県内学 ど、当館では年間 200 校前後の学校が来館して や「総合的な学習の時間」など、授業で博物館 で来館する小学校もあるが、多くが「社会科」 5変化するかもしれない。 を利用している。

するための基準である。これが10年ぶりに改訂 さて、来年度より、『新学習指導要領』が小学 文部省が定めた、各学校でカリキュラムを編成 されたことで、各教科等の目標や大まかな教育 校で本格的に実施される。学習指導要領とは、

使っていたころの暮らしの様子」が内容に盛り それにより、今後、「民具体験」の利用が減少す 例えば、3~4年生の社会科をあげる。以前は、 「古くから残る暮らしにかかわる道具、それを 込まれていた。しかし、新学習指導要領では、 生活の道具に関する内容の取扱いが狭まった。 内容が変わる見込みとなっている。

以上のことを考えると、当館の「学校との関 わり方」を再考する時期が来ているように思う。

る可能性がある。

れる施設になるためには、何より「博物館で活 民具体験に代わる新しい学習プログラムの開発 も必要かもしれない。しかし、私は学校に選ば

動する人の熱量」が大事だと感じている。

味を持ってほしい。 博物館はただの娯楽施設じ とがあった。私は「博物館を知ってほしい。興 の展示をもとに、「当館の成り立ち」から「博物 館の役割」や「文化財を守る意義」を話してい 5。すると、今年度、3~4 校の先生が戦災文化 俗や自然史以外の展示にも興味を持ってくれる 学校と民具体験の下見をしたときに、次のこ やないよ」という気持ちで、毎回、先生たちを 常設展へ案内している。そこで、「戦災文化財」 財の前で子供たちに同様の話をしてくれた。 ようになった。

て、好きになることが 1番だと思う。博物館関 動かすのではないか。ボランティアの皆さんに は、ぜひ「博物館の顔である常設展」にたくさ 職員やボランティア自身が博物館に興味を持っ 係者の「熱量」が、先生をはじめ来館者の心を い足を運んでほしい。興味を持って接すれば、 今後、当館が選ばれる施設になるためには、 毎日が新しい発見との出会いになるはずだ。



2月号④

○上運天先生とピノキオの会のみなさんと工作教室

でいました。特に印象的だったのは、龍のように尾の長い凧が少ない風を受けながらもグングン舞 毎年恒例の工作教室!今年は、「餌をついばむニワトリのおもちゃ」と「龍凧づくり」にチャレンジ Jました。上運天先生のハーモニカの演奏を BGM にし、参加者は時間を忘れて夢中に取り組ん い上がる姿の龍凧でした。また来年も先生と工作教室を開催したいです♪





ず!また、感想をお聞かせ願います。来年も面白い企画を考えます!!

アさんの中にもチャレンジした方もいらっしゃるは

のお客様より好評で中には。2時間かけてたっぷり と展示を楽しむ方もいらっしゃいました。ボランティ

込めて学芸員の協力のもと開催しました。県内外

べんなく回っていただきながら何を展示しているの

かを知ってもらうこと、御朱印帳のように集める楽 」さも然、「よき時間をすごせますように」と思いを

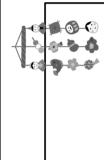
施しました。お客様には、博物館の展示室をまん

昨年、干支巾着を実施した内容を展示室でクイ ズに答えながら干支を見つけるワークシートを実

〇おきみゆ一的干支帳



3月号②



3/8 (日) 14:00~15:00 特別展「琉球王国集積・再興事業 手わざー琉球王国の文化ー」 3/8 (日) 14:00~16:30 「琉球古刺繍をやってみよう」 博物館実習室 「琉球の仏教彫刻―木彫刻を中心に―」 長谷洋一 (関西大学文学部教授) 0 3/23 (月・休館日) 13:20~15:00 集合場所:ふれあい体験室前 3/15 (日) 14:00~16:00 特別展閱連特別文化講座 3F講堂 寺田貴子 (活水女子大学 教授・伊平屋阿母加那志縫衣装製作担当者) ※ 定員 20 名程。「博物館特別展の入場券」が必要です。 ※ 定員 20 名程。「博物館常設展の入場券」が必要です。 展示解説会 篠原あかね、伊禮拓郎(美工担当学芸員) 展示物のほこり落としなど、6名以上募集します。 開始5分前に3F特別展示入口に集合。 ※ 定員15名(2/4受付終了) 少れめい存職側 Ibn 消毒 ボランティア連絡会



対象:博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア

対象:曜日班の世話係、勉強会の世話係

場所:ボランティア室

3/17 (火) 15:00~

2/4(火)に、特別展「琉球王国文化遺産集積・再興事業 手わざ 一琉球王国の文化一」が開催。

3/1 (日)、3/14 (土)、3/29 (日) 14:00~15:00 常設展「手わざの秘密」

展示解説会 伊禮拓郎 (美工担当学芸員)

開始5分前に常設展示入口に集合。

同時に、常設の美術工芸部門展示室でも「手わざの秘密」が開催中。

特別展「琉球王国文化遺産集積・再興事業 手わざ 一琉球王国の文化一」関連催事 ~

ζ

大川剛(教育部及担当学芸員)

3/21(土) 14:00~15:00 博物館バックヤードツアー

※ 当日先着12名(13:00~ 総合案内にて受付)

開始5分前にふれあい体験室前に集合。

※ 参加費 500 円

※ 当日先着80席(予約不要)

3/12 (木) 14:00~15:00 博物館常設展示解説会 澤浦亮平(人類担当学芸員)

3/13 (金) 18:00~19:30 【入門編】古文書勉強会

開催5分前にふれあい体験室前に集合。

「田里筑登之親雲上渡唐日記3」 田名真之(館長)

「琉球漆器の螺鈿技法のうつりかわり」 伊禮拓郎 (美工担当学芸員)

3/7 (土) 14:00~16:00 学芸員講座

3月の教育普及関連保事・その他

対象:一般 博物館講座室



今年度から学芸員として働き始めて、十 ヶ月あまりが経ちました。初めてづくしの 毎日です。そのなかで、一月二十九日から **初めての移動展に行ってきました!移動展体験記** 三十一日まで移動展 in 伊江島の準備と プニングのための出張を経験しまし 伊江島に渡るのも初めて、また、先輩 学芸員である大湾ゆかりさんもいない状 况での展示も初めてでした。 移動展の会場は伊江島タッチュー よし乃(民俗担当学芸員)

そびえ立つ伊江村農村環境改善セ でした。先発隊の皆さんが会場のレ りました。その状況に驚きつつ、わくわく しながら、ものすごく焦りながら準備をス タートしました。

民俗のコーナーでは「伊江島ウジョ」と いう野良着を展示の目玉に設定しました。 その伊江島ウジョは一九六〇年以前から 使用されていたもので、上江洲均先生著 『沖縄の民具』にも掲載されており、 (さきおり) の技術があったことを 示す貴重な資料です。伊江島の方々に、是 非この資料をご覧頂きたいと思い、展示資 料に組み込みました。

展示作業を治めてみると、とても乗し あっという間に時間が過ぎていきまし 作業に時間がかかってしまいました -プン前日三十日の夕方には完成さ せることができました。

三十一日のテープカットには、大勢の 方々にお越しいただきました。民俗のコ では伊江島ウジョをご覧になって懐 かしいお話をなさる方、初めて見たという いろんな感想をいただきました。 をとおして資料について直接教えていた

博物館・美術館の行事や展示会、仕事の ひとつひとつを大切にしていきたいと実 感した出張でした。





3月号④

第15回 ボラの道

一般財団法人

博物館 (R2 年 3 月)

沖縄県立博物館・美術館 3月1日発行 第149号

1

沖縄美ら島





ふれあい体験室ワークショップ 伊江島行ってきました!

Jた。みんなしっかりお話しを聞いてくれる良い子た ての回満員!多くの子どもたちに体験してもらえま



ます。その表情は真剣そのもの!ボランティアさんに 子どもたちは自分の好きな型を使ってレプリカを作り もサポートしていただきました。

り」のワークショップを実施しました。この日伊 江小学校では学習発表会があるということで、子 どもたちがどれだけ来てくれるのか心配だったの ですが、小中学生の子たちや保護者の方、学校の 先生や民泊中の県外大学生など色んな方々が集ま

伊江島に合わせて「かんたん化石のレプリカづく

今回の移動展では、化石の出土地として有名な

OKIMU

民話視聴コーナーではボランティア の皆様にサポートいただきました。

> 伊江島の子どもたちは好奇心旺盛ではきはきと した子が多く、意欲的に取り組む姿勢が印象的で した。目をきらきらさせて話を聞いてくれるので、 私もとても気持ちよくワークショップをすること ができました (笑)。また、学校の先生たちにレ プリカの作り方を伝授することができたので、 ことができました。

り、定員を超える 65 人の方々にご参加いただく

ルのレプリカ作りができるのかなと期待してい 加できなかった子たちもいつか伊江島オリジナ ж 4

万朝) 最後に、ご協力してくださったボランティア の皆様、本当にありがとうございました。

(沖縄美の島財団

MANAGEMENT NAME OF A STATE OF STATE O 2/2 (目) いれたい博士の



ガラではないですが、かしこまってごあいさっ

誠にありがとうございました。そしてご苦労懐でした。年であったこの一年間、博物館における様々な活動に参加くださり博物館ボランティアの皆様、平成から令和へと大きな世代わりの

とが失まりましたので、ご服告をさせていただきます。 私事となりますが、来る四月より、那覇市の小学校へ転動するこ

いかける決心をしたのでした。の皆さんがとても眩しく、「よし、自分も!」と張り切って後ろを追来館者の皆さんへの対応にココニコと活動されているポランティアがつい昨日のように思い出されます。学芸員の皆さんはもちろん、叶い、期待に胸を膨らませて博物館の門をくぐらせていただいた事思い返せば四年前、かねてから務めてみたいという希望がやっと

大切かもしれませんね。 考えていたことがいっぱいありました。しかし、何事にも腹人分が「もう少しの間(一年だけ)ここでこんな事をやりたかった!」とさせてくれる教師のような存在でした。正直本音を申し上げれば、ここで出会ったすべての方たちが大きな刺激となり、自分を成長

博物館・美術館の宣伝マンとして頑張ってみようと思います。今度はより地域に入って行って、学校経営者の立場から沖縄県立

様に厚くお礼を申し上げます。時には兄弟親戚のように接してくださった博物館ボランティアの皆時には兄弟親戚のように接してくださった博物館ボランティアの皆みが強かったであろう、私に、時には厳しく、時には両親のように、最後になりましたが、これまで、恐らく歴代の担当の中で最もア

令和二年三月吉日 教育普及担当 大川 剛

多動・退職のお知らせ

久部良和子(歴史担当学芸員) 平和祈念資料館

園原謙(美工担当学芸員) 空手振興課

空手振興課 大川剛(教育普及担当学芸員)

4月号②





沖縄県立**博物館**

IV *****

令和2年4月1日発行 第150号

ふれあい体験室スタッフ・富川 盛光(とみかわもりみつ)さん退職

この度、昨年10月から担当したふれあい体験 室を離れることになりました。ボランティアの 展示物の知識などたくさんの事を教えていただ きました。この経験を今後の人生に活かしてい 皆様には、お客様への接し方やおもてなしの心、 博物館ボランティアの皆様こんにちは!

今後は、お客さんとして博物館に遊びに来る と思いますので、その際はまた皆様とおしゃべ りできると嬉しいです。

短い期間でしたが、大変お世話になりました。

ありがとうございました

顯光)

三三



いつもニコニコ、小さなお子様への対応がとても上手 「思い出深いキットは三線です!」と話す富川さん。 でした。新しい進路へ進むため退職されます。 未来へ羽ばたけ!富川クン!

今年のふれあい体験室ワークショップ情報

「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」 4·5·6月

「ふれたい博士の封入標本」

7.8.9月

「ふれたい博士のティラジャーでコマあ 1・2・3月 そび(仮)」

「天然石のブレスレットづくリ(仮)」 博物館特別展「岩石展」関連 ■10・11・12月

今年度も、ふれあい体験室では毎週土曜日ワークショップを開催します。8年ぶりに実施するプロ グラムや、新規のプログラムも!ボランティアの皆様のサポートお待ちしています。

今年度もどうぞよろしくお願いします!

万嘉)

ふれあい体験室

4月号④

第16回 ボラの道

4・28 海上集会」の資料群について 久部良 和子 (民俗担当学芸員)

今から約 11 年前、沖縄県公文書館に勤務していた頃、館長から東京の映画現像所で沖縄関係の映像フィル ||崎市に残されたチラシから、これらを企画製作したのは、安室孫盛(北村孫盛、奈良三郎)であることがわ かった。また、沖縄教育史研究者によると安塞孫盛は、戦前教職員組合活動で検挙された 011 事件の関係者で が下りずに沖縄では上映できなかったようである。その後、江口氏の紹介で安室氏の息子・奈良一郎さんと映 画製作の支援者であった国会議員・帆足計の秘書:坪井隆二氏を紹介される。さらに、坪井氏より最後まで安 室さんを支えた町田忠昭氏を紹介され、安室さんがどのような人柄でどのような社会活動を行ってきたのかを 同うことができた。安塞孫盛氏も石垣市生まれ、県立一中(現在の首里高校)出身ということもあり、町田さ - 郎氏の自宅にあった「舞うれ、舞うれ」と「世乞いの歌」映像と資料--式は、国立劇場おきなわへ寄贈する ムが見つかったので、著作権等の問題がなければ収集するようにとメモを渡された。このメモには、「ニライ あること。また、沖縄映画史の研究者によると安室が製作した映画は他にもあり、復帰前は米国民政府の許可 んから沖縄県民へ資料をお返しするという理由で何回かに分けて資料を預かることになった。その中から奈良 公文書館の閲覧室には全国から多くの利用者が訪れる。川崎市民ミュージアム学芸員の江口氏もその一人だ。 O海 110mm、「沖縄 はまうり」35mm、「沖縄」35mmと書かれていた。その時からこの資料調査は始まった。 ||崎市は沖縄関係者が多い地域なので、是非、「ニライの海」を上映したいと数年前から調べていたとのこと。 ことになった。

今回、町田氏が寄贈する資料は、1963年から1970年頃まで日教組と沖縄祖国復帰協議会、官公労が共同で 開催した「4・28 海上集会」に関する資料であり、それらは、沖縄・小笠原返還要求実行委員会が全国の教 職員組合や学校に配布した沖縄祖国復帰関連資料群である。これらの資料は、本土側の人々が沖縄と小笠原の 回海上集会の様子は当時の本土と沖縄の境界線である北緯 27 度線を越えるという緊張した報告書は、当事者 vグ資料として印刷配布されたという。この資料群が、11 年前に館長から手渡された映像の内容と合致し「ニ 返遷要求をどのように考えていたか伺い知ることのできる貴重な資料群である。特に 1963 年に行われた第一 ならでは書けない内容であり、その記事はガリ版や活字に印刷され、全国津々浦々の教職員達へ資金集めのオ ライの海」や「沖縄 はまうり」の基となる基本情報であることがわかった。

安室氏と町田氏は、日教組という全国組織を活用しながら沖縄と日本本土との調整を行っており、青森から 東京までの大行進や海上集会など社会大衆運動の中心で活動していた。 安室孫盛という人物が社会運動や映画という芸術的手法で沖縄の本土復帰を訴え、その意思を引き継いだ長 全く知らない人と聞いたことがあるがどういうことかはわからないとのこと。50 年足らずで人の記憶が薄れ てしまうのは仕方のないことかもしれない。だからこそ文化の記憶装置として博物館において大切に保管し、 **野県出身の町田忠昭が現在までその記録資料を大切に保管してきたという事実を私たち沖縄県民は知らない。** 2022 年で沖縄は日本復帰 50 周年を迎えるが、「4・28 海上集会」について、周囲の若者達に聞いてみたら、 歴史的事実をモノに語らせる手法を我々学芸員は日々考えていかねばならないのではないかと思う。

今年 92 歳になられる町田さんに沖縄県民として、深い敬意を表すと同時に、今後これらの資料を整理・公 悲惨な沖縄戦を体験した本県民は米軍統治時代を経験し、施政権の返還という「復帰」を経験した。戦後の民 主主義を住民運動の中から学び、勝ち取ってきた諸先輩たちの軌跡と郷土を愛し文化を守る努力を継承し、こ 開・保存しつつ、次の世代へ活用してもらえるように博物館として責任をもって保管すべきであると考える。 れらの資料を後世へ引き継ぐことになれば、安室さんも喜んでくれるに違いない。

3 年間、ありがとうございました!!

XI その他

1 移動展

(1)移動展について(令和元年度)

- ①名称:第12回 沖縄県立博物館·美術館 移動展 in 伊江島
- ②会期:令和2年1月31日(金)~2月2日(日)
- ③開催時間:午前9時~午後5時(金曜日は11時から)
- ④開催地:伊江村農村環境改善センター
- ⑤対象:一般 ⑥観覧料:無料
- ⑦主催:沖縄県立博物館・美術館、(一財)沖縄美ら島財団、 伊江村、伊江村教育委員会
- ⑧協力:県立博物館友の会、県立美術館支援会 happ

(2)趣旨

沖縄県立博物館・美術館では、県民が本県の自然・歴史・文化や芸術を正しく認識できるよう、これまで集された資料を常設展示やコレクション展示で公開してきた。しかしながら島嶼県である本県では、当館の利用に不便を感じている離島や遠隔地に住む方々が多く、県民が等しく当館を利用することが難しい現状にある。移動展は、離島や遠隔地の方々に収蔵資料の展示をみていただくことによって、沖縄の自然・歴史・文化や、芸術への理解を深めていただくことを目的として実施する。

(3)移動展の実施状況

①展示内容·参加人数·関連催事

内容	期 日		内	訳			
展示内容	博物館展示	■沖縄の地学・生物 ■伊江島関連映像 ■ドローン撮影に。	勿・歴史・民俗・考さ (1977 年制作) 上映 はる、伊江島風景映作 ジアム事業成果資料	象上映			
	美術館展示	□「展覧会展示パネル」・・・・・・これまでの展覧会概要パネルの展示 □美術館収蔵資料(彫刻(レプリカ)、絵画)展示 □「沖縄の映画」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					
		1月31日(金) 2月1日(土) 2月2日(日) 計					
	70 歳以上						
本担	一般	83	104	106	293		
来場 人数	高 大	5	6	43	54		
	小 中	135	118	97	350		
	未就学児	70	63	37	170		
	計	301	302	307	910		
	1月29日 (木) ~ 1月31日 (金)	(1)1/29(水) 通 (2)1/30(木) 伊 (3)1/30(木) 伊	アム上映会 講師: 所介護事業所いえし 江村合同ミニデイ 江村立中央保育所 江村立東保育所	ま 参加:55名 参加:100名 参加:45名			

■関連催事① 館長による講座「近世の伊江島」

①参加:27名 (定員 40名)

②時間:19:00~20:30

③場所:伊江村農村環境改善センター中会議室

1月31日(金)

④講師:田名 真之(沖縄県立博物館・美術館 館長)





■関連催事②「フィールドツアーin 伊江島」

①参加:12 名 (定員 20 名)

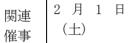
②時間:9:00~12:00

③集合場所:伊江村農村環境改善センター前

④講師:玉榮 飛道(伊江村教育委員会)、宇佐美 賢、澤浦 亮平

⑤準備:送迎用バス、救護車両1台~、各車両ドライバー、そのほか必要品

⑥参加費:100円(保険ほか)







■関連催事③「かんたん化石のレプリカづくり」

①参加:65 名(定員 60 名)

②時間・回数:各30分、計4回 10:00、11:00、13:00、14:30 開始

③場所:伊江村農村環境改善センター1 階ロビー

④講師:比嘉 麻乃 ⑤参加費:各回 300 円



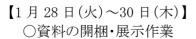


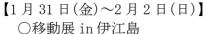


(4) 移動展運営の様子

【1月27日(月)】

- ○本部港より伊江港へ
- ○会場への資料搬入・会場設営





















2 職場体験

令和元年度は、中学校・高等学校など 4 校 14 人を受け入れた。学生たちは、もぎりやミュージアムショップでの接客業務や情報センターでの資料整理他、ふれあい体験室における対応やワークショップの下準備などを体験した。また、博物館・美術館職員による学芸業務の紹介やバックヤード見学なども実施。博物館・美術館に関わる様々な職種を体験することができた。

体験内容:もぎり(入場券の確認)、ふれあい体験室(ワークショップの準備)、ミュージアムショップ(接客、商品の管理)、情報センター(新聞の切り抜き作業・その他資料整理)、博物館・美術館班(バックヤードおよび学芸業務の見学)

受入校:4校14人(中学校2校、高等学校2校)

①那覇市立小禄中学校2学年(4人)

②沖縄県立沖縄水産高等学校2学年(2人)

③沖縄県立沖縄工業高等学校2学年(4人)

④浦添市立仲西中学校1学年(4人)

6月25日(火)~27日(木)(3日間) 7月9日(火)~11日(木)(3日間) 9月18日(水)~20日(金)(3日間) 12月17日(火)~18日(水)(2日間)





3 教育普及資料の活用

(1) 学校団体貸出一覧

	利用者	資料名	利用目的	貸出期間
1	浦添市立神森小学校	民具	民具体験学習	10/1~10/8
2	伊江村立西小学校	DVD (デジタルミュージアム)	地域学習	10/8~10/18
3	豊見城市立とよみ小学校	民具	民具体験学習	11/15~11/22
4	糸満市立潮平小学校	民具	民具体験学習	11/19~11/22
5	沖縄県立沖縄盲学校	本島古地図パズル 石積みパズル	視覚障碍者向けワークショップ	11/25~11/29
6	那覇市立松島小学校	民具	社会科授業	11/27~12/4
7	那覇市立垣花小学校	民具	民具体験学習	12/6~12/12
8	那覇市小禄小学校	民具	社会科授業	2/4~2/7
9	南風原町立津嘉山小学校	民具	民具体験学習	2/7~2/14
10	学校法人アミークス 国際学園	むかしむんキット	社会科授業	2/15~2/29
11	豊見城市立上田小学校	民具	民具体験学習	3/10~3/17
12	那覇市立大道小学校	民具	民具体験学習	3/13~3/19

博物館の教育普及関係資料等を貸出している。令和元年度の貸出団体数は12件であった。

(2) ほか活用・貸出一覧

	開催地	活用資料	活動内容	期日
1	宜野湾市立博物館	化石関連体験キット2種	展示会開催に係る活用	7/10∼
2	大阪市立自然史博物館	「化石組み立てパズル」ほか	第 20 回こどものための ジオカーニバル	11/1~11/3
3	沖縄市民体育館	「化石組み立てパズル」ほか	沖縄市サイエンスフェスタ 2019	9/8

博物館の教育普及関係資料等を活用し、学校団体以外にもアウトリーチ活動を展開した。 令和元年度の貸出団体数は3件であった。

4 ボランティアによる展示ガイド

博物館ボランティアの活動の一つに、展示解説ガイドがある。これは、来館者サービス向上の一環として、博物館常設展示室の「民俗部門」と「総合展示部門」で、ボランティアがわかりやすく解説することを目指している。

まず、民俗部門展示室においては、民俗勉強会のボランティア有志メンバーが中心となり、沖縄県内の離島をはじめとする小規模校(20 名以下)の子供たちを対象に解説ガイドを実施している。来館当日は、指定管理者のスタッフが引率教員と担当ボランティアとを引き合わせるが、<教員との打ち合わせ~オリエンテーション~展示ガイド~まとめ>までボランティアが先導し行っている。今年度は、合計 6 校 67 名を受け入れた。

そして、総合展示部門解説ガイドは平成26年度から本格実施し、今年度は15団体592名を受け入れた。こちらは、県外の修学旅行や一般団体の他、県内小学校、海外からの修学旅行下見などで利用しており、県内外のみならず国外の来館者に向けてガイドを実施することができた。また、週3回(8月は週4日)午後①待機型ガイドでは、539名(2月時点)に対応した。

広報については、ホームページ掲載、団体受付窓口の情報センターから直接案内することもあり、 年間を通じて実績を残すことが出来た。これらは、リピーターによる依頼のみならず、口コミなどで 情報を得て利用している様子も窺える。

(1) 民俗ガイド実施内容

①実施日:開館日の9:00~16:00

②所用時間:15分~30分

③対象:県内の離島をはじめとする20名以下の小学校・中学校・高等学校

④受付方法:

- a 「沖縄県立博物館・美術館博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。 (FAXを送信しただけで、予約は完了ではない)
- b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者から連絡する。

※見学をする2週間前までの予約が必要。(先着順)

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もある。

- ⑤参加費:無料
- ⑥内容:3種類のメニューから選ぶ。
 - ・Aコース【15分】「海とのかかわりを学びたい子どもたちへ」 エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室<ウ ミのワザ、沖縄の住まいと衣食、年中行事と魔よけ>
 - ・Bコース【15分】「昔の道具を学びたい子どもたちへ(田畑仕事を中心に)」 エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室<ア ギのワザ、くらしに生きる自然素材、沖縄の住まいと衣食) アギとは…ウミに対して、陸地を意味する方言、限られた土地を上手に利用して田畑を こしらえた。さまざまな仕事で使う道具にも人々の知恵と工夫をみることができる。
 - ・Cコース【30分】「民俗分野全体を学びたい子どもたちへ」 エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室(村 落をとりまく世界→御嶽と神人→訪ね来る神々→人の一生→ウミのワザ→アギのワザ→ くらしに生きる自然素材→沖縄の住まいと衣食→年中行事と魔よけ→祭り→行事の現在 →変わりゆく風景)
- ※メニューを基準に、内容の組み換えは可能。
- ※現時点で、民俗分野以外の解説はできないが、他の分野の展示物の見どころをお話しすることは 可能。(ただし、解説ではなく、展示物名を紹介する程度。)

(2) 総合展示部門解説ガイド実施内容

①実施日:開館日の9:00~16:00

②所用時間:30分~60分

③対象:県内外の一般・修学旅行団体

④受付方法:

- a 「沖縄県立博物館・美術館博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。 (FAXを送信しただけで、予約は完了ではない)
- b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者から連絡する。

※見学をする2週間前までの予約が必要。(先着順)

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もある。

- ⑤参加費:無料
- ⑥内容:3種類のメニューから選ぶ。
 - ・Aコース【30分】「総合展示部門:10~100名以内」 エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展総合展示 部門<琉球王国の成立、旧首里城正殿鐘、進貢船、琉球王国の衰亡、米軍車両とナン バープレート>
 - ・Bコース【30分】「ジンブンボックス*:100名以上」 エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→自由見学〈総合展示部 門5ヶ所、民俗部門2ヶ所にジンブンボックスを配置し、各箇所に置いて来場者へのガイ ドと質問対応をおこなう〉
 - *ジンブンボックス:沖縄の方言でジンブンとは「知恵」を意味し、「知恵を与える箱」と して設置する。今回のガイドでは、このボックスの前でボランティア が来場者に向けた解説を行う。

民俗部門解説ガイド

	利用区分	地域	日付	団体名	対象	人数	ボランティア 人数
1	修学旅行	沖縄県	4月16日(火)	カトリック学園海星小学校	学生	12	2
2	修学旅行	沖縄県	6月21日(金)	比川小学校	学生	7	2
3	修学旅行	沖縄県	6月27日(木)	平久保小学校	学生	5	2
4	修学旅行	沖縄県	9月26日(木)	福嶺小学校	学生	12	2
5	修学旅行	沖縄県	10月18日(金)	阿波連小学校	学生	4	2
6	修学旅行	沖縄県	10月25日(金)	仲里小学校	学生	27	2
	合計					67	12

総合展示部門解説ガイド

NO II	ᄍᄭᄜᆡᆥ	T 11/6/3 1						
	利用区分	地域	日付	団体名	対象	人数	ボランティア 人数	コース
1	研修	京都府	4月16日(火)	東洋きもの専門学校	学生	15	6	Aコース
2	修学旅行	沖縄県	5月17日(金)	宮古島市城辺小学校	学生	28	7	Aコース
3	研修	沖縄県	5月29日(水)	琉球大学沖縄の文化 留学生日本語クラス	学生	20	4	Aコース
4	修学旅行	茨城県	5月30日(木)	茨城県立北茨城特別支援学校高等部	学生	16	5	Aコース
5	研修	沖縄県	6月27日(木)	ペアーレ楽園・幸寿大学校	70歳以上	32	8	Aコース
6	授業	沖縄県	7月30日(火)	宮里キッズクラブ	学生	37	3	Aコース
7	催事	沖縄県	9月12日(木)	中城村登又すでい花会	70歳以上	23	4	Aコース
8	修学旅行	大阪府	10月31日(木)	大谷中学校	学生	59	5	Aコース
9	授業	沖縄県	11月17日(日)	浦添市立前田小学校	学生	146	7	Bコース
10	研修	福岡県	11月20日(水)	ふくおかアジア文化塾	一般	28	4	Aコース
11	修学旅行	茨城県	11月29日(金)	茨城県立石岡特別支援学校	学生	27	3	Aコース
12	修学旅行	東京都	12月4日(水)	東京都立田園調布特別支援学校	学生	49	2	Aコース
13	研修	沖縄県	12月5日(木)	やんばる学びの森	一般	19	4	Aコース
14	研修	香港	1月22日(水)	友愛交流構築事業実行委員会	一般	10	3	Aコース
15	授業	沖縄県	1月24日(金)	糸満市立糸満小学校	学生	83	2	Bコース
				合計		592	67	

5 企画展・特別展関連事業

(1) 企画展「台湾~黒潮でつながる隣(とうない)ジマ~」

- ①文化講座2回(参照:IV 博物館文化講座)
- ②学芸員講座2回(参照:V博物館学芸員講座)
- ③ほか関連講座3回(座談会)

実施日:座談会①令和元年9月14日(土)14:00~16:00 参加者41名

座談会②令和元年9月28日(土)14:00~16:00 参加者71名

座談会③令和元年10月26日(土)17:00~19:00参加者70名

場 所: 当館講堂·博物館研修室

④ほか関連催事4回 (映画上映会)

○映画①:「心の故郷」

実施日:令和元年9月13日(金)14:00~16:30 参加者23名

令和元年9月26日(木)14:00~16:30 参加者47名

• 場 所: 当館講堂

○映画②:「湾生いきものがたり」

実施日:令和元年9月6日(金)14:00~16:30 参加者38名

令和元年9月14日(十)17:30~19:30 参加者41名

・場 所:当館講堂







(2) 特別展 琉球王国のグスク及び関連遺産群世界遺産登録20周年記念特別展 「グスク・ぐすく・城」

- ①文化講座1回(参照:IV 博物館文化講座)
- ②学芸員講座1回(参照:V 博物館学芸員講座)
- ③世界遺産登録20周年記念講演「文献からうかがえるグスクの姿」

実施日:令和元年11月19日(火)14:00~16:00

講 師:田名 真之(沖縄県立博物館・美術館 館長)

参加者:100名 場 所:講座室にて

④ほか関連講座2回

○シンポジウム①「形から見たグスクの原点を探る」

・実施日:令和元年12月21日(土)13:00~17:00

• 場 所: 当館講堂 ・参加者:242名

○シンポジウム②「遺跡から見た琉球列島のグスク時代」

· 実施日: 令和2年1月19日(日)13:00~17:00



・講師: 當眞嗣一(前沖縄県立博物館館長) 「グスク研究の歩み」

村木 二郎 (国立歴史民俗博物館) 「島々からみた『琉球帝国』」

池田 榮史 (琉球大学法文学部)

「奄美におけるグスク時代」

久貝 弥嗣(宮古島市教育委員会)

「宮古諸島におけるグスク時代の展開」

小野 正敏 (国立歴史民俗博物館名誉教授)

「八重山におけるグスク時代」

·場 所: 当館講堂 ·参加者: 240名











⑤ほか関連催事2回

○遺跡ツアー①グスクを支えた人々の痕跡をめぐる遺跡見学ツアー

· 実施日: 令和元年 12 月 15 日 (日) 13:00~16:30

・場 所: 宜野湾市各所遺跡 ・参加者: 25 名

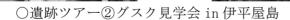












· 実施日: 令和2年2月15日(日)12:30~17:30

・場 所:伊平屋島賀陽グスク ・参加者:20名











6 常設展に関する取組み

(1) 博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな!」の活用

博物館常設展の見学の手助けとして、平成23年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな!」を引き続き常設展入口のラックに設置し、今年度は、10,000枚を配布した。また、英語版「ここだけは見逃すな!」も3,000枚を配布した。

(2) 博物館・美術館連携事業「博物館・美術館で平和を考えるイベント」

博物館・美術館連携催事として、慰霊の日に「博物館・美術館で平和を考えるイベント」を開催した。美術館で戦争に関する絵画作品を中心に鑑賞ツアーをおこなった後、博物館へ移動し近現代史の展示資料を解説しながら戦前戦後の沖縄について解説した。そして、最後に黙祷を捧げた。

実施日:6月23日(日)13:00~14:00

場 所:博物館常設展示室

担 当:外間一先(歴史担当学芸員)

参加者:14人(定員なし)

参加費:無料

(3) 博物館常設展示室ワークシート「GWアタクにアタック」

みどりの日にちなみ、博物館常設展示室自然史部門のジオラマを 活用したワークシートを実施した。

実施期間:5月1日(金)~5月6日(月)

場 所:博物館常設展示室

配布数:200枚作成者:大濵萌子

(4) 博物館常設展示室ワークシート「夏休みは自然史部門を楽しもう!」

夏休み期間に「①アタクにアタック(生物)」「②港川人のひみつ (人類)」「③目指せ石マイスター(地学)」を実施した。全問正解者 差し上げた。

実施期間:8月1日(木)~9月1日(日)

場 所:博物館常設展示室

配布数:628枚 (①180枚 ②238枚 ③210枚)

作成者:大濵萌子

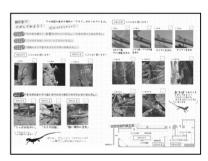
(3) 博物館常設展示室ワークシート「おきみゅー的干支めぐり」

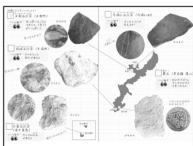
旧暦のお正月にちなみ、博物館常設展示室全体を活用し干支を探す ワークシートを実施した。全問正解者には、ケナガネズミのバッチを 差し上げた。

実施期間:1月24日(金)~2月2日(日)

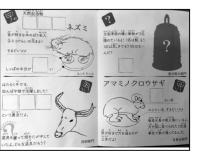
場 所:博物館常設展示室

配布数:500枚 作成者:大濵萌子









7 新聞・雑誌等掲載一覧

博物館で開催した催事に関する新聞や雑誌における掲載は下記の通りである。

○講座・展示解説会・体験学習教室など

し時足 成小肝肌ム 体験子自教主体と						
掲載紙	掲載日	掲載欄	内容			
沖縄タイムス	11月10日(日)	社会面	学芸員講座「映像・写真記録の沖縄」			
沖縄タイムス	11月10日(日)	社会面	学芸員講座「映像・写真記録の沖縄」			
琉球新報	12月23日(月)	ひと・暮らし	グスク展関連催事シンポジウム I 「形から見たグスクの原点を探る」			

〇ふれあい体験室

掲載紙	発行日	掲載欄	内容
「ミュージアムキッズ vol.9」	6月1日(土)	全国ワークショップ@ミュージアム	ふれあい体験室ワークショップ 「ふれたい博士の封入標本」
「ミュージアムキッズ vol.10」	12月1日(日)	全国ワークショップ@ミュージアム	ふれあい体験室ワークショップ 「ペーパービーズでアクセサリーづくり」
be-o 119号	12月25日(水)	Hot News!	ふれあい体験室ワークショップ 「ふれたい博士のびんがたデザイン」

8 印刷物一覧

	タイトル	規格	デザイン	印刷	部数
1	文化講座(11回)	A4 (片面カラー・片面モノク ロ)	教育普及班 (沖縄県・沖縄美ら島財団)	株式会社グラフィック/ 館内手刷り	各500
2	学芸員講座(12回)	A4 (片面カラー・片面モノク ロ)	教育普及班 (沖縄県・沖縄美ら島財団)	株式会社グラフィック/ 館内手刷り	各500
3	夏休み!こどもフェスタ2019博物館学芸員講座	A4 (両面カラー)	KOMIDESIGN	株式会社グラフィック	6,500
4	2019年度博物館イベント情報	A4 (両面カラー)	教育普及班 (沖縄県・沖縄美ら島財団)	株式会社グラフィック	7,000
5	これだけは見逃すな(日本語版)	A4 (両面カラー)	教育普及班 (沖縄県・沖縄美ら島財団)	株式会社グラフィック	20,000
6	これだけは見逃すな(英語版)	A4 (両面カラー)	教育普及班 (沖縄県・沖縄美ら島財団)	株式会社グラフィック	9,500
7	博物館常設展示室ワークシート「GWアタクにアタック」	A4 (両面カラー)	沖縄美ら島財団	館内手刷り	200
8	博物館常設展示室ワークシート「夏休みは自然史部門を楽しもう!」 ①アタクにアタック(生物)	A4 2つ折 (両面カラー)	沖縄美ら島財団	館内手刷り	180
9	博物館常設展示室ワークシート「夏休みは自然史部門を楽しもう!」 ②港川人のひみつ(人類)	A4 (両面カラー)	沖縄美ら島財団	館内手刷り	238
10	博物館常設展示室ワークシート「夏休みは自然史部門を楽しもう!」 ③目指せ石マイスター(地学)	A4 (両面カラー)	沖縄美ら島財団	館内手刷り	210
11	ふれあい体験室ワークシート 「港川人研究所 港川人VS現代人」	A4 (両面モノクロ)	_	館内手刷り	500
12	ふれあい体験室ワークシート 「黒曜石で切ってみよう!」	A4 (両面モノクロ)	_	館内手刷り	100
13	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器①チューリップを弾いてみよう!」	A4 (両面モノクロ)	沖縄美ら島財団	館内手刷り	300
14	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器②きらきら星を弾いてみよう!」	A4 (両面モノクロ)	沖縄美ら島財団	館内手刷り	300
15	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器③安里屋ユンタを弾いてみよう!」	A4 (片面モノクロ)	沖縄美ら島財団	館内手刷り	100
16	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち①古地図パズルおまけ」	A4 (両面モノクロ)	_	館内手刷り	100
17	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち②古地図パズルおまけ」	A4 (両面モノクロ)	_	館内手刷り	100
18	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち③古地図パズルおまけ」	A4 (両面モノクロ)	_	館内手刷り	100
19	令和元年度博物館教育普及活動	A4 (両面モノクロ)	教育普及班 (沖縄県・沖縄美ら島財団)	企画印刷ハーツ	800

令和元年度 沖縄県立博物館・美術館

博物館・美術館 教育普及活動

2020 (令和2) 年3月

発 行 沖縄県立博物館・美術館

7900-0006

那覇市おもろまち3丁目1番1号 Tel (098) 941-8200 (代表)

Fax (098) 941-2392

編 集 沖縄県立博物館・美術館 博物館教育普及

沖縄県立博物館・美術館指定管理者 一般財団法人 沖縄美ら島財団

印刷 企画印刷 ハーツ

那覇市繁多川3丁目13番8号

TEL: (098) 835-3752 FAX: (098) 835-3754